



平成29年度 教員免許状更新講習報告書



秋田大学
教員免許状更新講習推進センター



教員免許状更新講習推進センターの理念・目的・目標

教員免許状更新講習推進センターの理念

教員免許状更新講習を通じ、学校教員がその時々で求められる教員として必要な資質能力が確実に保持されるよう、必要な刷新を行うことにより、秋田県を中心として、公教育の改善・充実と、公教育に対する保護者や国民の信頼の確立に寄与する。

教員免許状更新講習推進センターの目的

1. 教員免許状更新講習を企画・立案する。
2. 教員免許状更新講習を実施する。
3. 教員免許状更新講習を点検・評価し、改善する。
4. 教員免許状更新講習に関わって関係諸機関と連携する。

教員免許状更新講習推進センターの目標

- A. 更新講習に対するニーズをふまえ、必要な量と質の講習を確保する。
- B. 受講者の利便性を考えた受講システムを構築し、改善を継続的に行う。
- C. 更新講習が円滑かつ安全に実施されるよう、施設設備、環境等を整備する。
- D. 更新講習に対する評価を踏まえて、FD等の活動を実施し、改善に努める。
- E. 秋田県教育委員会と適切に連携しながら更新講習の企画・実施にあたる。
- F. 県内の高等教育機関、研究機関等と適切に連携しながら更新講習の企画・実施にあたる。

目 次

・はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
・平成29年度教員免許状更新講習推進センター担当者会議・・・・・・・・	2
【資料編】	
・平成29年度教員免許状更新講習推進センター業務記録・・・・・・・・	16
・平成29年度教員免許状更新講習関係委員会等名簿・・・・・・・・	17
・平成29年度教員免許状更新講習実施状況・・・・・・・・	19
・平成29年度教員免許状更新講習受講者評価結果まとめ・・・・・・・・	20
・平成29年度教員免許状更新講習受講者事後アンケート・・・・・・・・	21
・平成29年度教員免許状更新講習担当者事後アンケート・・・・・・・・	28
・平成29年度教員免許状更新講習一覧・・・・・・・・	33
・平成29年度教員免許状更新講習修了者・履修者調・・・・・・・・	51

はじめに

教員免許状更新講習は、ご存じのように2007年の教育職員免許法の改正に伴い、教員免許状に更新制が取り入れられたことによりスタートしました。2008年度の夏に予備講習を行い、2009年度から本格実施となり、来年度で10年目を迎え、再来年度から受講が2回目となる方々が出てきます。

また、2016年度からは、教員免許状更新講習の総時間数は変わりませんが、新たに「選択必修領域」が設けられ、講習の全体構造が変わりました。これまでの必修領域の12時間が、必修領域6時間と選択必修領域6時間の二つになり、選択必修では受講者がそれぞれの関心や希望に応じて講習を選択できる範囲が広がりました。そのようなことから、本センターでは、昨年度に引き続き選択必修として29講座を開設し、新たなニーズへ対応できるように努めました。さらに、昨年度の課題であった選択講習における選択の幅も増やすように努めました。

そのうえ、全国的にも特徴的であったと言える、比較的大人数を対象にした選択必修領域の講座を必修領域の講習日の前後に6つ開設することも、昨年度から引き続き行い、受講生の利便性に考慮しました。

改めて今年度の開設（認定）数を記すと、必修科目8講座、選択必修科目29講座(1講座廃止)、選択科目114講座(9講座廃止)の講習を開設し、それぞれの受講者数は、必修761名、選択必修755名、選択1749名という実施状況でした。トータルでは前年度と同程度の受講者数であり、各開講科目も順調に運営できました。全国的に見ても、本センターで開講している講座数は多く、また、以下の資料にもありますように、受講者からも高い評価を得ているところです。これらは、ひとえに講座を担当されている先生方、あるいは事務方の皆様のご協力とご援助の賜物と、心より感謝申し上げます。

さらに、年度末には、「教育免許状更新講習推進センター 担当者会議」を開催し、「必修」、「選択必修」、「選択」各領域の実施状況を確認し合い、新たなローテーションに入る再来年度までを見通した改善に向けての意見交換・情報交換を行いました。

また、秋田大学のみならず、秋田県教員免許状更新講習推進協議会の委員ならびにその所属機関である秋田県教育庁、秋田県立大学、国際教養大学、日本赤十字秋田看護大学、秋田公立美術大学、聖霊女子短期大学、聖園学園短期大学の関係者の皆様のご協力に、感謝申し上げます。

最後になりましたが、私どもセンター教職員を信頼して下さり、運営上の問題に的確にご助言・ご支援をいただいた理事・副学長の四反田素幸先生に深く感謝申し上げます。



2018年3月

秋田大学教員免許状更新講習推進センター長

森 和彦

平成 29 年度 教員免許状更新講習推進センター 担当者会議

秋田大学教員免許状更新講習推進センターでは、各領域の担当講師から講習内容について報告してもらい情報交換・意見交換を行うことで、次年度以降の改善につなげることを目的に、担当者会議を開催した。

以下は、本会議の概要である。

日 時：平成 30 年 3 月 7 日（水）14:00～15:30

場 所：秋田大学 一般教育 1 号館 208 会議室

出席者：平成 29 年度秋田大学教員免許状更新講習の担当講師等 22 名
(秋田大学以外の講師を含む)

司 会：石井照久副センター長

1. はじめに

森センター長より、以下のとおり挨拶があった。

- ・平成 29 年度の講習は滞りなく終了し、受講生にも概ね満足していただく内容であったが、会場の温度設定や駐車場の準備等、細かい課題は残る結果となった。
- ・再来年度からは旧免許状所持者の 2 回目の受講も開始されるため、教育動向や新しい知見を踏まえた講習内容を検討していかなければいけない。
- ・講習内容については、どうしても小中高に特化してしまうことが多いため、幼稚園教諭向けの講習内容の充実が課題となっている。

そのことを踏まえ、来年度は選択領域や選択必修領域において幼稚園教諭向けの講習の充実を図ったが、特に全員が受講する必修領域の講習においても、内容を考慮していく必要があると思われる。



挨拶する森和彦センター長

2. 各領域担当講師からの報告（報告内容は別添資料のとおり）

1) 必修領域講習

○演題：必修講習の内容と課題

大学院理工学研究科 鈴木 翔 先生

2) 選択必修領域講習

○演題：「<選択必修>『学校現場に即した実践と理論Ⅰ～Ⅲ』実践報告」

～受講者の声を踏まえ心がけたこと～

大学院教育学研究科 関谷 美佳子 先生

3) 選択領域講習

○演題：「教員の課題解決につながる免許状更新講習」

教育文化学部 佐々木 信子 先生



鈴木 翔 先生



関谷 美佳子 先生



佐々木 信子 先生



担当講師の報告を熱心に聞く参加者たち

3. 意見交換

受講者からの報告の後、意見交換がなされた。主な意見・質問は以下のとおり。

○秋田県の講習の一層の向上を図るべき。秋田県の講習と他の都道府県の講習を比較できるような資料はあるのか。

上記の質問に対して事務局から、開設大学が集まるような機会がなく、他の都道府県と比べるデータはないこと、文科省指定アンケートの全国平均が公開されているが、本学はほぼ全国平均と同じであることなどが報告された。



意見交換の様子



司会を担当した石井照久副センター長

○必修講習とパックで行う選択必修講習について、小中高の教員は内容を比較的理解しやすいと思うが、近年増加している幼稚園教諭・保育教諭や、特に保育士の方については、どうしても指導要領や講習内容が学校中心となってしまう傾向にあるので、満足度を引き出すのも難しい現状にあると思われる。

そのことについて、講習を行うに当たり何か工夫していることはあるのか。

上記の質問に対して、講習担当講師（必修講習とパックで行う選択必修習（幼・小コース））から、以下の取り組み事例が報告された。

- ・講習資料の冊子に、幼児教育に関する指導要領を掲載した。
- ・講習に臨む前に、現在、幼児教育の現場で抱えている課題やその方たちが求めているものを、学内の幼児教育の先生から情報提供を受けて、講習内容に反映させた。
- ・資料にも掲載しているが、特に、今年度話題となった「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」は、この姿を「到達目標」として掲げると間違えたとらえになってしまうので、あくまでも「方向目標」であるということを誤解がないように説明した。
- ・全県の幼小連携に係る研修会に参加した際の経験を、講習に生かした。
- ・幼児教育について、1人の子どもを幼小・中高・大学・社会が連携して育てていこうとしているスタンスは、特に小学校の教員に知ってほしい。幼児教育が実際にどのように行われているかを知ること、それを受けて小学校でどのように教育を行っていけばいいのかということに繋がっていく。

4. 最後に

森センター長から、以下のとおり挨拶があった。

- ・再来年度から旧免許状所持者の 2 回目の受講が始まることもあり、教員免許状更新講習推進センターとしては、より良い講習を受講生に提供していく必要がある。
- ・講師側においても、受講生は休日に受講料を支払って受講しに来ているということを再認識することで、さらにより良い講習に繋がると考える。
- ・必修領域担当講師からの報告の中で、講習を行った際、他の講習と違うことを言っているという指摘を受講生から受けることがあるということだが、担当講師にはそれぞれの得意分野がある。

そのため、統一のテーマの中で講師により異なった話をするということは悪いことでもなく、また逆に複数回取り上げられるのは重要な部分だからでもある。ただし、お互いがどのようなことをやっているのかということ、このような担当者会議を通じて理解を深めていく必要もあると思われる。



教員免許状更新講習担当者会議：必修講習の内容と課題

鈴木 翔（理工学研究科）

1. 講習の目標

教員および保育士が抱える ①現代的な課題 に対する ②自分なりの答え を、③根拠を明確にして説明できる ようになること。

2. 講習の内容

講習名が「【必修】教育事情の動向：教育・学校の動向とその ^{せいさつ}省察」となっているため、講習では、日本の教育動向の流れを説明したあと、現代的で未解決な課題（毎年異なる）を2つ提示し、具体的なデータを参照しながら、その課題に挑戦してもらっている。

今年度の講義の内容と課題は以下の2つ。

①進路指導における加熱（warming-up）と冷却（cooling-out）のバランスの問題

- ・加熱（warming-up）と冷却（cooling-out）
- ・ASUC 職業（魅力的で人気があるが、なれる人が少なく、学歴・資格が不問で、なれたとしても収入が圧倒的に少ない職業）を希望する児童・生徒の増加

【講習の課題1】「夢追い型進路指導」には一定の教育効果がありますが、「やりたいこと」を重視した進路指導には、「イメージ先行で“憧れ”に基づいた、現実的ではない進路を選択しやすい」といった副作用があることがわかってきました。あなたは「夢追い型」進路指導を進めることに賛成ですか。それとも反対ですか。あなたの考えとその考えに至った理由を具体的に教えてください。

②教員の職務の無限定性に関する問題

- ・教員の職務の専門性
- ・教育改革の動向（ポジティブリスト問題とネガティブリスト問題など）

教員免許状更新講習担当者会議：必修講習の内容と課題

鈴木 翔（理工学研究科）

授業で提示する資料の例

2013年度 中学校教員の一週間の平均仕事時間（単位：時間）

	総仕事時間	授業時間	授業準備時間	事務業務	課外活動
日本					
アメリカ（一部地域）					
イギリス		----		---	---
フランス					
イタリア		----	---		---
カナダ			-	-	

2015年度 職業別平均給与（単位：万円）※正規雇用のみ

	月給	ボーナス等	年収合計
小・中学校教員（公立）			
高校教員（公立）			
保育士	--		
大学准教授			
家庭教師，塾・予備校講師			
従業員数1000人以上の民間企業（大卒のみ）			
従業員数100～999人の民間企業（大卒のみ）			
従業員数10～99人の民間企業（大卒のみ）	---	---	---

【講習の課題2】「子ども（生徒）のためにすべきこと」は多岐にわたります。そのすべてを「教員（保育士）の職務」としてしまうと、教員（保育士）にかなりの負担がかかってしまうことが問題視されるようになってきました。あなたは、どこからどこまでを教員（保育士）の職務としてとらえていますか。あなたの考えとその考えに至った理由を具体的に教えてください。

3. 必修講習の課題

- ・どうしても自分の専門（教育社会学）に近い内容になってしまうため、他の必修に比べて、内容が不足したり、偏ってしまっているのではないかと不安になる。
- ・必修の講習に限った話ではないが、講師間で違うことを言っているため、統一してほしいという要望がある。
- ・「考えさせるのではなく、答えのあることを教えてほしい」という要望があるが、実際にはなかなか難しい。
- ・教員免許更新制度そのものに不満のある方が、不満を訴えてくる。

〈選択必修領域〉「学校現場に即した実践と理論Ⅰ～Ⅲ」実践報告

～受講者の声を踏まえ心がけたこと～

秋田大学教職大学院
関谷美佳子

1 講習の概要

- ・「A：学校を巡る近年の状況の変化」「B：学習指導要領の改訂の動向等」を午前と午後
に実施
- ・Ⅰ「幼・小コース」、Ⅱ「小コース」、Ⅲ「中・高コース」の3コースを設定し、それぞ
れの対象者に合わせた内容で実施

— 〈中・高コースの例〉 —

「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中
央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」について理解を
深めるとともに今回改訂の最新事情についても理解する。両講習とも講義後、ワークショップ
形式により、いじめや不登校の問題、進路指導・キャリア教育の進め方や家庭・地域との連
携・協働等からいくつかの課題について、それぞれの立場から意見交換を行い、それらに対
し講師が助言・解説をし、理解を深める。

- ・6月から11月まで、全14回実施（裏面「担当講習一覧」参照）

2 担当者

教職大学院の実務家教員8名

（田仲誠祐・千葉圭子・古内一樹・廣嶋徹・工藤正孝・山岡正典・茂木達彦・関谷美佳子）

3 心がけたこと

- (1) 最新の情報の提供
- (2) 担当者間での共通理解・共通実践
- (3) ワークショップの充実
- (4) 配付資料の工夫
- (5) 実践的な内容の充実
- (6) その他

4 成果と課題

〈成 果〉

- 学習指導要領改訂の時期と重なり、タイムリーな情報を提供することができた。
- 講義とワークショップのバランスについて、昨年度の反省を踏まえて改善したところ、
好意的な意見が増えた。
- ワークショップで、他校種の教員と情報交換できたことについて評価する声が多かった。
- 授業での実践例を多く紹介したことが好評だった。「具体的な授業のイメージが湧いた」
という感想が寄せられた。

— 〈課 題〉 —

- ▲「必修領域講習」との内容の摺り合わせが必要であった。
- ▲複数の校種を対象とする場合、取り上げる内容の校種のバランスについて配慮が必要である。
- ▲情報の精選・焦点化が必要（多くの情報が溢れる中で、何をどの程度取り上げるか）。
- ▲より主体的な学びを引き出すことができるよう、内容や形態について引き続き改善をしていくことが求められる。

◇担当講習一覧

講習番号	講習名	主な受講対象者	受講定員	期 日	受講会場
701	学校現場に即した実践と理論Ⅰ（幼・小コース）	幼・小・特	40	6月18日	県立農業科学館
702	学校現場に即した実践と理論Ⅲ（中・高コース）	中・高・特	20	6月18日	県立農業科学館
703	学校現場に即した実践と理論Ⅱ（小コース）	小・特	70	7月9日	秋田大学
704	学校現場に即した実践と理論Ⅲ（中・高コース）	中・高・特	50	7月9日	秋田大学
705	学校現場に即した実践と理論Ⅰ（幼・小コース）	幼・小・特	70	7月27日	横手セントラルホテル
706	学校現場に即した実践と理論Ⅲ（中・高コース）	中・高・特	50	7月27日	横手プラザホテル
707	学校現場に即した実践と理論Ⅰ（幼・小コース）	幼・小・特	70	8月1日	北秋田市民交流センター
708	学校現場に即した実践と理論Ⅲ（中・高コース）	中・高・特	50	8月1日	プラザ杉の子(大館市)
709	学校現場に即した実践と理論Ⅱ（小コース）	小・特	70	8月7日	老人福祉総合エリア(秋田市)
710	学校現場に即した実践と理論Ⅰ（中・高コース）	中・高・特	50	8月7日	秋田テルサ
711	学校現場に即した実践と理論Ⅰ（幼・小コース）	幼・小・特	70	9月24日	秋田大学
712	学校現場に即した実践と理論Ⅲ（中・高コース）	中・高・特	50	9月24日	秋田大学
713	学校現場に即した実践と理論Ⅰ（幼・小コース）	幼・小・特	70	11月12日	秋田大学
714	学校現場に即した実践と理論Ⅲ（中・高コース）	中・高・特	50	11月12日	秋田大学

（計） 780

〈選択必修領域〉
「学校現場に即した実践と理論 I ～Ⅲ」実践報告

受講者の声を踏まえ心がけたこと

秋田大学教職大学院
関谷 美佳子

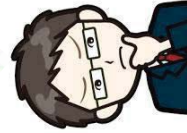
1

受講者の「本音」は…



高いお金を払って、わざわざ
休日をつぶしてまで受けなけれ
ばいけないなんて…

👉 基本的に、不満や疑問をかかえてやって来る。



どうせやるなら、有意義な研修
にしたい…

👉 わざわざ来たからには、自分のプラスに
したい。何かおみやげを持って帰りたい。

3

【概要】

A: 学校を巡る近年の状況の変化 (午前)
B: 学習指導要領の改訂の動向等 (午後)

- ・「幼・小コース」「小コース」「中・高コース」の
3コースを設定 (対象教員に合わせた内容)
- ・6月から11月まで、全14回実施

【担当者】

教職大学院実務家教員8名

〔 田中誠祐、千葉圭子、古内一樹、廣嶋 徹、
工藤正孝、茂木達彦、山岡正典、関谷美佳子 〕

2

それにしても… さすがに
一日中座って話を聞かされるの
は辛い…



👉 もっと工夫してほしい。

👉 そうでなくても、休日返上で疲れがたまっているのに…



理論は分かった。でも、それって
学校現場でどう役に立つの…?

👉 学校現場で使える実践的なことを学びたい。
(何をどうしたらいいのか、具体的に知りたい。)

4

受講者の声を踏まえて心がけたこと

(1) 最新の情報の提供

- ・文部科学省派遣者の協力による最新データの入手

(2) 担当者間での共通理解・共通実践

- ・講義内容の検討会、情報の共有、原稿読み合わせの実施
- ・共通の配付資料



受講者に不公平感をもたせないための配慮

5

12

(3) ワークショップの充実

- ・午前、午後それぞれにワークショップを設定
- ・講義と演習のバランスを改善
- ・校種や年齢を考慮した意図的な班編成

校種間連携や新たな視点からの気付きを重視

- ・個人思考の時間の確保
- ・発表時間の確保
- ・発表内容を受けての助言、質問への対応

6

(4) 配付資料の工夫

- ・業者に依頼して冊子を作成
 - 〔印刷の労力軽減
 - 〔印刷不鮮明による見にくさの解消
 - 〔受講者にとっては「お土産」に
- ・ワークシートは、持ち帰りに

(5) 実践的な内容の充実

- ・実際の授業での具体例を提示
 - 〔自身の授業改善について、具体的なイメ
 - ージがもてるよう配慮

7

(6) その他

◇満足度が下がる要因をできるだけ排除

- ▶ ▲会場の環境に関すること

・暗い ・寒すぎる、暑すぎる
 ・教室が汚い ・会場が分かりにくい
 ・スライドの字が見えにくい



アンケートに記載することで、事務局に情報を提供

- ▶ ▲試験や時間等について、見通しがもてない

8

成果と課題

【成果】

- 学習指導要領改訂の時期と重なり、タイムリーな情報を提供
- 講義とワークショップのバランスについて、好意的な意見の増加
- ワークショップで、他校種の教員と情報交換できたことについて、評価する声
- 授業での実践例を多く紹介したことで、「具体的な授業のイメージが湧いた」という感想

9

【課題】

- ▲ 「必修領域講習」との内容の摺り合わせ（内容にダブりがあった可能性あり）
- ▲ 複数の校種を対象とする場合、取り上げる内容の校種のバランスについて配慮が必要
- ▲ 情報の精選、焦点化（多くの情報が溢れる中で、何をどの程度取り上げるか）
- ▲ より主体的な学びを引き出すための工夫

10

「教員の課題解決につながる免許状更新講習」

教育文化学部学校教育課程 佐々木信子

1 はじめに・・・講習は、始まる前から始まっている！

- ①受講者の状況・要望の把握 ⇒ 何を期待して受講したのか、本音を語る雰囲気
- ②事前・事後の課題提出 ⇒ 研修でやりたいことを明確にし、結果を残す
- ③事前アンケートへの対応
- ④校種別・学校別・教員歴別の個人対応

2 参加型協働学習でアクティブに学ぶ！（刺激と共感）

- ①導入は関心の高い分野から：学校の取り組みや生徒の活躍を紹介
- ②講習内容の把握：見通しの持てる詳しい日程の提示
- ③多様な授業形態：飽きさせない授業構成の工夫
 - ⇒ 時間配分・内容のめりはり（午後はできるだけアクティブに）
 - ⇒ プレゼン・事例発表・ペア学習・グループワーク・ロールプレイ等々
- ④最終到達点の明確化：評価基準及び課題の確認
 - ⇒ 各自の授業や年間指導計画の課題解決を目指す
- ⑤時間厳守：計画通りの日程で行い、ちょっとだけ早めに終わる

3 課題解決の具体的な手立てを提案する！

- ①すぐに役立つ資料の作成
 - ※全日本中学校技術・家庭科研究大会（秋田大会）
 - ※地区研究会授業担当者の指導案・教材の作成
- ②学校現場の悩みを共有し、解決の糸口を見つける

4 おわりに・・・受講者の期待に応えるために！

- 文部科学省・日本家庭科教育学会等の動向や最新情報の提供
 - ※現場の先生とのつながりを大事に・・・

大変だったけど、参加してよかったと思えるような講習にしたいものです！

平成29年度教員免許状更新講習

【資料編】

- ・平成29年度教員免許状更新講習推進センター業務記録
- ・平成29年度教員免許状更新講習関係委員会等名簿
- ・平成29年度教員免許状更新講習実施状況
- ・平成29年度教員免許状更新講習受講者評価結果まとめ
- ・平成29年度教員免許状更新講習受講者事後アンケート
- ・平成29年度教員免許状更新講習担当者事後アンケート
- ・平成29年度教員免許状更新講習一覧
- ・平成29年度教員免許状更新講習修了者・履修者調

平成29年度教員免許状更新講習推進センター業務記録

月 日	内 容
4月 26日	第1回運営委員会, 第1回企画部門会議
5月 10日	【第1次募集】受講者申込受付(~5月15日)
5月 25日	【第2次募集】受講者申込受付(~各講習開設日の4週間前まで)
5月 12日	秋田県教員免許状更新講習推進協議会
6月 3日	平成29年度講習開始(~12月28日)
10月 27日	実務連絡会
11月 15日	第2回運営委員会, 第2回企画部門会議
2月 9日	第3回運営委員会, 第3回企画部門会議
2月 14日	平成30年度開設講習について, 文部科学大臣へ申請
3月 7日	教員免許状更新講習担当者会議
3月 15日	平成30年度開設講習について, 文部科学大臣より認定
3月	「平成29年度教員免許状更新講習」報告書作成

平成 29 年度 教員免許状更新講習関係委員会等名簿

(1) 教員免許状更新講習推進センター運営委員会

氏 名	職 名	
森 和 彦	教員免許状更新講習推進センター	センター長
石 井 照 久	同上	副センター長
今 井 忠 男	国際資源学研究科	教授
佐 藤 修 司	教育学研究科	教授
佐 藤 学	教育文化学部	教授
河 上 肇	理工学研究科	教授
西 山 亨	同上	准教授
阿 部 寛	医学系研究科	教授
篠 原 ひとみ	同上	教授
鈴 木 翔	理工学研究科	助教

(2) 教員免許状更新講習推進センター企画部門

氏 名	職 名	
森 和 彦	教員免許状更新講習推進センター	センター長
石 井 照 久	同上	副センター長
今 井 忠 男	国際資源学研究科	教授
原 義 彦	教育学研究科	教授
篠 原 秀 一	教育文化学部	教授
古 内 一 樹	教育学研究科	特別教授
石 井 宏 一	教育文化学部	准教授
山 名 裕 子	教育文化学部	准教授
篠 原 ひとみ	医学系研究科	教授
鈴 木 翔	理工学研究科	助教

(3) 秋田県教員免許状更新講習推進協議会

氏名	職名	
四反田 素 幸	秋田大学	理事（教育・学生・入試担当）
吉 澤 結 子	秋田県立大学	理事（兼）副学長
佐 藤 健 公	国際教養大学	教職課程代表 教授
宮 堀 真 澄	日本赤十字秋田看護大学	看護学部長
毛 内 嘉 威	秋田公立美術大学	副学長
横 溝 眞 理	聖霊女子短期大学	教務部長 教授
小笠原 京 子	聖園学園短期大学	教授
鎌 田 信	秋田県教育庁	教育次長
森 和 彦	秋田大学	教員免許状更新講習推進部外長

(4) 教員免許状更新講習事務室

氏名	職名	
眞井田 善 彰	教員免許状更新講習事務室	事務室長
藤 澤 惇 也	同上	主査
塚 田 有 希 (~H30.1.)	同上	課員
笹 子 綾 子 (H30.2.~)	同上	課員
大 山 洋 子	同上	課員

平成 29 年度教員免許状更新講習実施状況

1 開設状況(認定数)

	開設講習数	開講講習数	廃止講習数
必修	8	8	0
選択必修	29	28	1
選択	114	105	9
合計	151	141	10

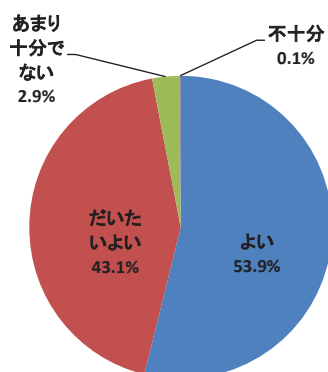
2 申込状況

	定員数	受講者数 (のべ)	履修認定者数 (のべ)
必修	930	761	761
選択必修	1175	755	755
選択	2677	1749	1749
合計	4782	3265	3265

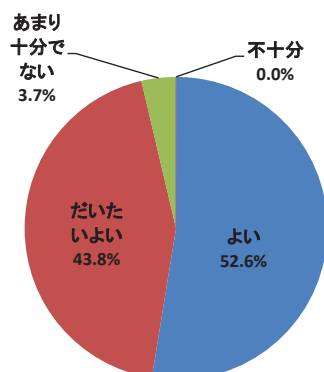
平成29年度教員免許状更新講習受講者評価結果まとめ

必修

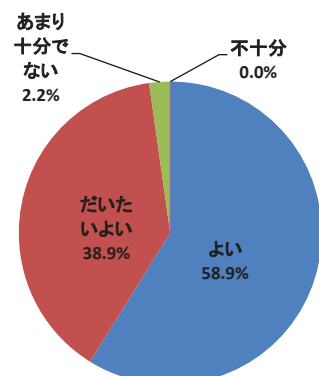
I 講習の内容・方法(必修)



II 知識技能習得成果(必修)

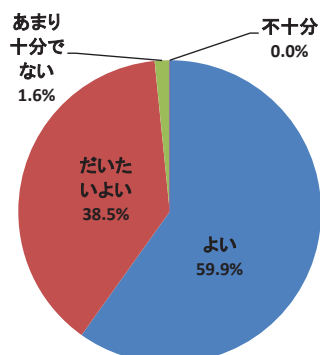


III 運営面(必修)

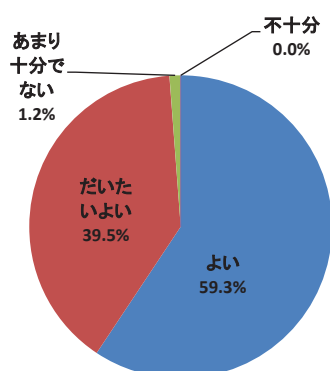


選択必修

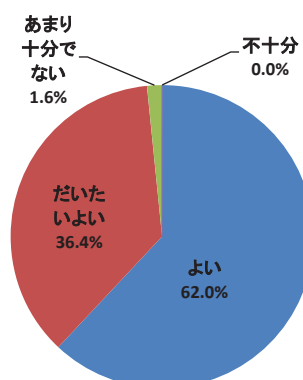
I 講習の内容・方法(選択必修)



II 知識技能習得成果(選択必修)

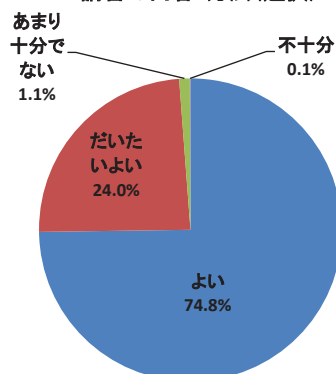


III 運営面(選択必修)

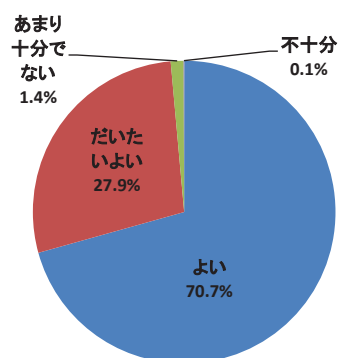


選択

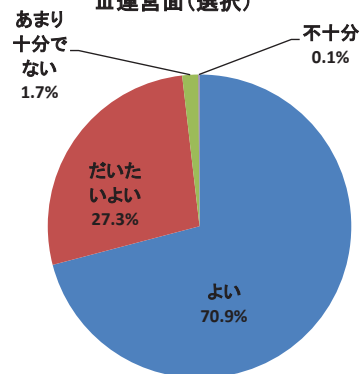
I 講習の内容・方法(選択)



II 知識技能習得成果(選択)



III 運営面(選択)



平成 29 年度教員免許状更新講習受講者事後アンケート

※選択(講習領域記載なし)、選択必修、必修の順

自由記述(講習内容、運営面等)

1.	グループワークで、普段はほとんど交流する機会のない学校の先生と意見交換ができたことで、幼児教育とのズレや意外な共通点を知ることができとても参考になった。(幼稚園)
2.	学校現場での活用が考えられた研修内容(説明の中でも、実際学校で教える際は…といった話がよく出てきていた)で参考になるところが多かったと思う。(小学校)
3.	授業計画、指導案、教材開発等の話題があってほしい。(小学校)
4.	講習期間中に新聞発表になったことなどの最新情報も教えてくださって、すごくありがたかったです。(栄養教諭)
5.	教科指導方法や生活指導についての研修は度々あるが、専門性を高められるような研修がほとんどないため、今日の講習はとてもためになった。(高校)
6.	難しい言葉が多く(ききなれない)、試験は悩み、難しかった。(保育園)
7.	資料を読んだり、グループで話し合ったりと、めりはりがあり、充実した講習となりました。教科書教材をとりあげてくださったのも助かりました。(高校)
8.	対話型の鑑賞学習は以前から注目していたが、授業の進め方がよく分からなくてなかなか取り組めずにいた。今日は動画と具体的なポイントで分かりやすく説明していただいたので、授業に取り入れ経験を積んでいきたい。(中学校)
9.	分かりづらい専門用語も、すべて1つ1つていねいに説明して下さって、とても分かりやすかったです。(高校)
10.	フィールドワークでは、専門的な説明と実物を見ることで、より深い理解につながったと思う。(小学校)
11.	少し、学校現場としてのレベルは、生徒のレベルが高い学校が対象であるように思えました。(高校)
12.	今回の講習は理論的な部分が多かったように思うのですが、できれば実践的な部分もとり入れていただけると(現場で使えるような activity のあり方など)さらによかったのでは…とも感じました。(高校)
13.	新学習指導要領への移行を前に、私たち小学校教員が学ぶべき知識をいろんな方面から聞くことができ、とても身のある3日間となりました。(小学校)
14.	今回の様に、具体的事例をあげて、どのように対応したか、良かった点、悪かった点、他にどのような対応が考えられるかを学べる講座はとても有意義です。(高校)
15.	講習の始めに先生が、試験について説明して下さったので、安心して受講することができました。(小学校)
16.	3日間にわたる講習の進行予定をいただき、いつ、どんなことを学ぶのかが明確で分かりやすかったです。(小学校)

17. 事前に購入したテキストにしたがって講義が行われたため、どのように行われるのか予測ができたので取り組みやすかった。(高校)
18. 3日間連続でしたが、1日分が短いので疲労感があまりなかったです。(小学校)
19. 説明の際に使用したPP資料を、そのままいただくと助かった(配付プリントに書かれていない大事なことをメモするのが、結構大変だった)。(高校)
20. 資料が充実しており、分かりやすい講習でした。(高校)
21. 今後の学習活動への活用を考えると実際体験できたのはよかったです、何か資料として残るとよりよいと感じました。(特支)
22. いつも講習は、大体60~80人くらいの人数だったので、今回の30人ほどの講習はとってもゆったりとして受講できる感じで良かった。(保育園)
23. 実習などの講習があれば受講してみたい。(栄養教諭)
24. 午前と午後で講師の方が変わられたのですが、内容が重複している部分が散見されました。(特別支援)
25. メモをしている間にスクリーンが消えてしまって書ききれなかったもので、できればもう少しゆっくりペースで映し出してもらえれば、良かったかなあ…と思います。(認定こども園)
26. 鷹巣会場は県北にいる者にとっては、大変助かります。(小学校)
27. 免許状更新講習の講座がもう少し県南地区でも開催していただければと思います。(小学校)
28. 湯沢市から来ているので、中央等での開催は遠くて大変。横手市だったので来やすかった。高速を下りて、すぐのこの場所も良いと思う。: 県立近代美術館会場 (保育教諭)
29. 県立大の雰囲気もよく、集中して講義が受けられました。(小学校)
30. 初めて免許状更新講習を受講しましたが、大学内の表示が分かりやすく安心しました。(小学校)
31. 昼食場所についての説明があれば良いかと。学食がやっているのか、またそこで食べていいのかを知らせてほしい。: 秋田大学会場 (高校)
32. 秋大の駐車場を利用させてもらったので、駐車の手配がなくて良かった。(認定こども園)
33. 平日利用する住吉駐車場のところにもう少し大きく「利用可能」とわかるような看板がほしかった。(認定こども園)
34. 冷房がききすぎていてさむかったです・・・(幼稚園)
35. 会場が狭く、圧迫感がありました。: Y2ぷらざ会場 (認定こども園)
36. 来年度は近隣に有料駐車場があることもシラバスなどでお知らせいただくとありがたいのではないかなと思いました。: 聖園短大会場 (こども園)
37. トイレの数が少なく、便座クリーナーがない事と洗面場に手洗いせっけんや消毒液がない事に、衛生面や感染症対策がされていない事で、外部の人を受け入れる体制が整っていない事を感じ

た。: 秋田大学会場（保育園）
38. 受付なども講師の先生がされていて大変そうでした。: 教養大会場（高校）
39. 空調からマイクまで、すべて先生お一人の操作でお気の毒に思いました。: 秋大会会場（特別支援）
40. 講習における初登録の開始時間ですが、平日の17時だと厳しいので、平日のもっと遅い時間か、土・日にしてもらいたい！（認定こども園）
41. 6/17, 6/18は大館北秋田の中学総体です。他の先生方にもぜひ受けてほしいと思える内容だったので、来年以降は総体とかぶらないように日程を組んでほしいと思いました。（中学校）
42. 夏季休業中も学校行事や出張が優先されるため、希望する講座がとりにくく、講習の数がさらにあれば夏季休業中の講習が受けやすくなると思います。（中学校）
43. 受付は会場前で行ってほしい。（車での来場者に行きづらい、わかりづらい）（高校）
44. 会場の変更が伝わってなく、あちらこちらにと会場につくまで移動しなければならなかったのが大変でした。（認定こども園）
45. 申し込んで、支払ってから、当日まで、連絡がなく不安になる。（保育園）
46. 1日目のフィールドワークの実施の可否について、全員に連絡は難しいと思いますが、twitterで情報を流してもらえるとよかったですと思いました。（小学校）
47. 電子データでシラバスを手に入れることができるので、とても楽でした。（中学校）
48. 受講に際して前もって練習や暗譜（暗記）が必要なものに関してはシラバスの文字を太字や大きいフォントで表すなど、あらかじめ分かるようにしてほしい。（小学校）
49. もっと安くして下さい。（高校）
50. 2週連続日曜日に行き、月～金の勤務はややハードだった。免許更新講習そのもののあり方には疑問を感じている（内容、時間、日程、費用など）。たとえば県で行っている十年研のような研修をもって本講習にすることはできないのか。（小学校）
51. 免許状の更新について…更新するこの時間と労力を考えれば、廃止すべきだと考えています。…もう少し単位を減らすとか、少しでも負担を軽くできないものかと考えています。（高校）
52. この制度が、教師としての仕事の中に含まれてくれればと思います（教師が休日をつかって講習をうけるのではなく）。（中学校）
53. 講習については、もう少しみんながまとまって受講できるシステムを地教委などがつくっていくとスムーズかなとは思いました。（中学校）
54. 1～2年の間に30時間ではなく10年間のスパンの中で時間を累積していけるシステムになると助かると感じました。それであれば30時間ではなく50～70時間でも良いと思います。（高校）
55. 学校の教員の中で障害に対する認識が様々なのでこういった講習（特別支援教育）や研修を、出前講座のように学校でできるしくみがあればいいと思った。（小学校）

56. 選択科目の種類が充実していて、何を受けるか、本当に迷いました。今後の免許状更新講習も多くの人が様々なことを学べる機会になるよう、開講される講習が充実したものであってほしいです。(高校)
57. ここ数年、支援を必要とする子供が増加傾向にあると思います。…障害児教育についての講習のコマ数を増やしていただきたいと思います。(認定こども園)
58. 講師の先生の体調が急変したことに直面しまして、万が一に備え、AEDの保管(設置)場所も事前に教えていただけることはできるのでしょうか?(小学校)
59. もう少し講義内容もその年代に合わせたものがあると、いいと思いました。(無記入)
60. 教諭、教員として働いていない方への通知について... 運転免許証のように、県教育庁など、教員登録している都道府県よりはがきで通知されると良いと思います。(保育園)
61. 有資格者への周知方法を行政と一緒に考えて欲しい。(こども園)
62. 幼稚園教諭を対象とした内容の充実をお願いしたい。やはり学校とは違い、教育面よりも実技的な講習の方が現場でも活用でき、よりよいものになると思う。(保育士)
63. 参加者に幼の先生方が多いようだったが、講習内容が少し小に寄っていた気がするの、そのバランスがもう少し取れるとよかったのではないか。(小学校)【選択必修パック】
64. 進むスピードが早く、どこのページの内容かわからなくなったことが何回かあった。「何ページ」と時々確認してもらえればありがたい。(養護教諭)【選択必修パック】
65. 講師の先生のマイナス発言がちょっと気になりました。一応我々は一生懸命教えてもらおうという気持ちで来ているので、あのようなマイナス発言はなくてもいいかと思いました。(小学校)【選択必修パック】
66. グループ協議はいろいろな話が聞けて良いのですが、小・中の市教委研修にもよくあります。実践発表など聞く機会でもあったら...と思います。(小学校)【選択必修パック】
67. 協議(話し合い)の時間が中途半端になってしまい、思い切って長めに1回だけ設定した方がよかった様に思います。(小学校)【選択必修パック】
68. グループ討議の時間が短く、もっと幼保の先生方と意見交換ができればよかったなと思いました。(小学校)【選択必修パック】
69. スライドが、もう少し大きく、明りょうに映し出されると見やすかったように思う。(手もとの資料も印字の小さいものがあつたので...)。(小学校)【選択必修パック】。
70. 一日の講義時間の流れをスライドではなくペーパーで出来れば出して欲しかったです。(保育園)【選択必修パック】
71. 講師の先生の経歴や現在のお立場を示していただいたら、よりありがたいと思いました。(小学校)【選択必修パック】
72. 新学習指導要領について、自分の勤める校種以外のことも紹介していただき、勉強になりました。(小学校)【選択必修パック】
73. 今年度は、新学習指導要領の説明にもう少し時間があってもよかったのではないか。(中学校)【選択必修パック】

74. 個人では、さまざまなデータを集めるにも、なかなかうまくできないことがあり、一冊の冊子にまとめていただき、見やすく、考えの一助となった。(高校)【選択必修パック】
75. 最近、視力がよくないので、スクリーンが小さく後方の席だったので、少し見えづらかったです。グルーピングは良かったと思うので、講義中は、自由席としていただけたら、前に座りたかったと感じます。(中学校)【選択必修パック】
76. 論述式の試験で、30分という時間が短く、足りないように感じた。急いで書いてぎりぎり間に合う位の時間だった。(保育園)【選択必修パック】
77. 小学校は来年度から道徳科が全面実施されるのでちょうど良いタイミングでこの講座を受けることができ、考えさせられる面がたくさんあった。(小学校)【選択必修】
78. 会場も人数も適切で、とても学びやすい状況でした。(高校)：大仙市会場【選択必修パック】
79. 駐車場がなくて困りました。(認定こども園)：横手市会場【選択必修パック】
80. 空調の音で声が聞き取りにくいところがありました。(小学校)【選択必修パック】
81. 空調がききすぎる(寒い。切ると暑い)(小学校)：北秋田市会場【選択必修パック】
82. 会場が広く、ゆったりしていて落ちついて受講できた。音響などよかったが、スクリーンがもう少し大きい方がよかった。レジェで確認することができたので支障はなかったが、せっかくなのでパワポもはっきり、はっきり見ればさらによいと思う。(その他)：北秋田市会場【選択必修パック】
83. 駐車場や会場は矢印がありよかったのですが、会場までの階段などが暗くて分かりにくかったです。(認定こども園)：秋大会会場【選択必修】
84. 講習の開講日を学校の長期休業中などに多く設定してもらえると、部活動をやっている立場からは、とりやすいので助かります。(高校)【選択必修】
85. 必修科目と2日間つづけての日程はありがたい。(高校)【選択必修パック】
86. パソコン等、苦手な方もいると思います。申し込みの方法がいくつかあると助かると思います。(認定こども園)【選択必修】
87. スマホでも申し込むことができると良い。(認定こども園)【選択必修】
88. すぐに定員がいっぱいになってしまうこともあり、受たい講習が受けられないなどの問題もあるのではないかと。(保育所)【選択必修】
89. 受講料の支払い方法が他大学と比較して、とても便利であった。会場の案内も事前&当日、ともにとてもよい。昼食時の案内(学食の利用や食べてよい場所 etc)も文書であると、さらによい。(養護教諭)【選択必修】
90. 保育園・幼稚園の給料の中での3万円という講習料は高いように感じる。(保育園)【選択必修パック】
91. 秋田県の教育についても詳しく知りたいと思う。(中学校)【選択必修パック】
92. 受講者からの質疑に答えて頂く時間を設けていただけないのでしょうか。(中学校)【選択必修パック】

93. 今後この制度の中で講習が継続していくのであれば、幼保を対象とした講座の充実と拡充をお願いしたい。(保育園)【選択必修パック】
94. 幼児教育の受講者が多い学科は2回あればと思います。(保育所)【選択必修パック】
95. 5回の講習で今までの教育の見直しができるのは良いことだと思います。(認定こども園)【選択必修】
96. 現在教職にはついていないため、「所属長の証明」がもらいにくく、10年後だとなおさらです。教員免許状の情報と本人の意志だけでは更新はできないものではないでしょうか。改善を希望します。(教員勤務経験者)【選択必修】
97. 更新時期など、職場を通しての連絡だったが個々に連絡は来ないものなのか…。(保育所)【選択必修】
98. 職種異なるグループ協議では、幼・保、中の状況や指導観を知ることができて、勉強になった。(小学校)【必修】
99. 小学校以上の教育についてだけでなく、幼児教育についても触れて頂けて有難かった。(保育園)【必修】
100. 幼稚園教員免許の更新なので学校の話が中心なのは理解しますが、その他の職業などの人もいるので、講習の内容を色々な方面からの内容にしてもらえるとありがたいです。(保育園)【必修】
101. 講義だけでなくワークショップ等があり、参考になった。(小学校)【必修】
102. クイズ形式の問題が楽しかった。(保育園)【必修】
103. 例え話や実際の話がたくさんあり聞きやすかった。(認定こども園)【必修】
104. 講習の時間配分、試験の実施の仕方については改善された方が良かったかと思いました。「必修」の講義は各回ある程度同じ条件で行われて欲しいと感じました。(小学校)【必修】
105. スクリーンが前だけではなく、中間にもあることで、画面がとても見やすかった。:大仙市会場(認定こども園)【必修】
106. 会場の暗さは老眼の我々には少しつらかった(スクリーンは見やすかったが手元の資料はほとんど読めなかった。)(小学校):大仙市会場【必修】
107. 講習の建物までの行き方がわかりにくく、行ったり来たりしている人たちがいたことと会場が暑かったことが少し残念であった。(小学校):秋大会会場【必修】
108. 前回来た時より、看板などが多く感じ、場所(会場、トイレ、受付)などわかりやすかったです。(幼稚園):秋大会会場【必修】
109. 駐車スペースが非常に狭く、早めに来たつもりでしたが、とても苦労しました。(小学校):横手市会場【必修】
110. 空調等快適な環境で受講することができありがたかったです。(中学校):横手市会場【必修】
111. 事前に提示されていたシラバスと講習の内容が異なっていたので、統一していただければと思います。(高校)【必修】

112. 毎日仕事がとても多忙で、土日に講習ということだと休めません。平日に来られるしくみは無理なんでしょうか？部活のある先生だともっと大変かと…。(高校)【必修】
113. 必修の講習が各地区で実施されることはありがたい。しかし、できれば各地区2回お願いしたい。(高校)【必修】
114. 受付の人が遅刻者の連絡を受け、受付が止まっていました。当日のトラブルの受付と、参加者の受付は一緒にしない方がよいと思います。(高校)【必修】
115. 免許更新講習の制度そのものについてはやはり検討してほしいと思います。教員の勤務は多忙をきわめており、その中で休日返上、費用をかけて更新をしなければならないのか、勤務時間内、研修の範囲で行うことはできないのか…。(小学校)【選択必修パック】
116. 講習を受けることでとても勉強になるので、良いものだが講習に来るには、それなりの時間とお金がかかる。今は休日保育を行っているところも多く、土日にそう簡単に来られないものも実状であるので、この制度をもう一度見直してほしい。(認定こども園)【必修】
117. 免許更新の制度については、様々な意見があると思うが、このような何らかの刺激を受ける機会があつてよかったと思う。(高校)【必修】

平成 29 年度教員免許状更新講習担当者事後アンケート

※選択（講習領域記載なし）、選択必修、必修の順

1 担当した講座の内容や方法に関する感想・意見

1. 現場でのとり組みや課題について、有益な知見を共有することができました。
2. グループディスカッションの時間が苦手だという方が数名いましたので、来年からどうしようか悩んでいます（好きな人もいます）。
3. 意見交換（受講者同士）があることで、関心や意欲が高まり、よいように思った。
4. 先生方のスキルアップとして、より高度な講座と、小学校低学年以下を対象とした授業を分けると良かったと感じた。
5. 新学習指導要領や受講者の事前アンケートを踏まえた内容を心掛けたことで、達成感の得られる講座であったという声が聞かれた。
6. 現場で働いている方々は、様々な問題をかかえており、受講者の事前に提出いただいた要望に沿うことは難しい。
7. 講義と実技に分け、内容に応じた人数配分をすることで効果的な学びにつながっているように工夫している。
8. 幼保の先生が多く、名簿が来てから、一部、講習の内容を変更し、配布資料を変更しました。さまざまな校種に対応可能な内容にすることは困難ですが、勉強になります。
9. 校種を超えたワークショップは有効と思われる。【選択必修パック】
10. できるだけ、実践例を紹介したり、現場での状況を意見交換できるように配慮した。【選択必修パック】
11. 小・中の教員を中心に考えていたが、中総体と日程が重なっていたため中学校の教員の受講が少なく、又、幼児教育の教員が多かったため一部内容を変更した。講座の日程について、再検討したい。【選択必修】
12. 国の教育政策や世界の教育の動向、教員としての子ども観、教育観等についての省察。講義のみならず、ディスカッション、アクティビティー、ロールプレイを取り入れ、参加型の講座を試みた。【必修】
13. 必修ということで内容については制約があり、特に幼保の先生方にはピンとこない内容だったかもしれない。【必修】
14. 参加者の校種の幅が広く、講義を構成することが難しい。【必修】

2 受講した参加者に関する感想・意見

1. とても熱心に受講していただきました。高校・中学、またお一人ですが幼稚園教諭の方もご出席くださり、その点においても有意義でした。
2. 自校の課題に熱心に取り組み、教指導に役立てたいという意欲が窺えた。

3. 非常に熱心に望んでいる受講者もいるが、あまり積極的でない受講者が増えていると感じた。
4. 参加者は熱心に学んでいる様子が伺われ、指導者側も気持ちよく講義を進めることができた。
5. シラバスを見ないで申し込んでいる受講生がいた(複数)。
6. 日程を決める際に、全県の行事日程を提示してもらえると助かります。学校の教員が忙しくない頃合いを見計らえるので。
7. 受講生の校種が幅広く、内容に苦慮した。
8. 受講生によって、興味、関心、そして講義内容の需要の度合いに違いがある(あり過ぎる)ように思う(特に例年と比較して)。
9. グループワークを多くとりいれましたが、2日間、しっかり受講して下さっていました。
10. 現場の課題が明確であり、主体的な学びができています。【選択必修】
11. メモ等を取りながら、様々なことを学びとろうとする姿がみられた。ワークショップでは活発な議論がなされていた。【必修】

3 会場での場所、施設・設備、空調等に関する感想・意見

1. 水場が不自由だった。
2. 「暑い」という人と「寒い」という人がいて、空調の設定をどうしようか悩みました。
3. 暑い日は早めに空調を入れていただけるとありがたいです。
4. 人数的には十分な教室でしたが、暑い時期だったということもあり、もう少し広い教室でもよかったと思いました。
5. 県北以外の受講者にとっては、比較的、利便性が高いといえる。(由利本荘市)
6. マイク(ワイヤレス)の電池切れか?マイクを使用することができなかった。事前の確認が必要であった。
7. 研究室から遠いのが大変でした。
8. 聖園短大の駐車スペースの提供をした方がよいと思う。公平でないという事務局側の意見もあったそうだが、数限りはあるが、60台はとめることは可能。
9. 自校の短大を使用しているので、事前の準備もやりやすく、また空調等の調整もしやすい。
10. 交通の便に難がありましたが、臨時の会場なので仕方ありません。(横手市会場)

11. 事前にいただいた会場図と当日のグループワークの机の配置が違い、再度グループの座席を決めなければなりませんでした。【選択必修パック：セントラルホテル】
12. 会場時刻が、8時で準備時間にゆとりがなかった。【選択必修パック：北秋田市会場】
13. スクリーンが奥にあり、文字が見えづらくなってしまった。ステージ手前の設置は難しいのかもしれませんが、ご検討いただければありがたいです。【選択必修パック：北秋田市会場】
14. ポインターを用いて説明するには角度的に少々不自由な面がありました。テーブル等の配置については、受講及びワークショップの実施には申し分ありませんでした。【選択必修パック：シルバーエリア】
15. スクリーンが小さく、もう少し大きいスクリーンだとありがたかった。【選択必修パック：秋田テルサ】
16. 固定の机・椅子で少々圧迫感が感じられました。【選択必修】
17. スライド画面をレーザーポインターで刺しやすいように、講義テーブルがもう少し前へ移動できるというように感じた。【選択必修：秋田大学会場】
18. 座席が前に詰まっている感じがします。全体を少し後側にずらすと良いと思います。【選択必修：秋田大学会場】
19. 上げきが必要な会場であったが、事前にシラバスの追記だけでなく、別途ご連絡いただくとありがたいです。【必修：シルバーエリア】

4 秋田大学の更新講習の実施体制、事務連絡等に関する意見・要望

1. 今年度もよかったですと思います。(教室変更の対応など)
2. 予算の確保をお願いしたい。
3. 前日に簡単な説明をいただけた方が安心する。特に教育文化学部以外の教員は不慣れであり、オリエンテーションがあった方が良かったかもしれない。
4. 連絡先等の情報に関して、毎年同じ書類を作成しています。変更があった場合のみ提出するようにはできないでしょうか。
5. こういった講習が効果的に活用されることを望みます。受講は短時間であり、きっかけに過ぎないので、今後受講者が専門分野について自発的かつ継続的に学習されることを切に願います。
6. 多様な受講者のニーズによく答えてくださっていると思います。
7. 天候が危ぶまれたが、前日に連絡をいただき安心して開催することができた。
8. 担当の事務職員が中に入って連絡調整をしてくれているので、特に困ることはない。
9. 担当教員の全員に、シラバス、このアンケート、実施に当たって等の資料を送付して欲しい。
10. 秋田大学開催のときは、学食が営業していないとがっかりされました。

11. 受付する分早出しても手当が出ない。
12. 受講生が80名と多い場合、受付時に併せて講習で使用する資料を配布していただくと助かります。
13. 受付の場所がわからなかった方が複数いたようです。【選択必修】
14. 来年度で10年をむかえ、受講が2クール目に入る対象者のことを考え、H31年度から講師陣の刷新ができればと考えている。【選択必修】

5 学校、教育委員会、文部科学省などに対する意見・要望

1. 小、中学校で、もっと彫刻系（立体系）の授業を増やしてほしい。
2. 教育学部の教員による、最新の教育法などを開講した方がいいように思う。
3. 講習に関する最新データなどいただけるととても助かります。
4. 科学の進歩は速いので、更新講習で最先端を学んでもらうのはいいことである。
5. 更新講習が本当に必要なのか、資質向上につながっているのかを検証してほしい。
6. 先生方の経済的負担が軽減できるような対策を取っていただければいいと思います。

6 来年度へ向けての要望など

1. 評価についてS～Fの評価は必要でしょうか。「合」「否」のみであれば負担軽減になります。
2. 毎年行われる学部の行事とできるだけ重ならないようにできると助かります。
3. 今年度の経験に基づき、さらに充実した講習を来年度も実施したい。
4. 講習会場は、AV機器等使い慣れている教育文化学部の教室を充てていただきたいです。
5. （申込数の）倍率等分かれば複数開催も考えます。
6. 今年は人数的にはやりやすかったです。来年度もこれ位を希望。人数が少ないとtensionが上がりませんし、多いと負担が大きくなると思います。
7. 受講生の感想を踏まえて次年度の講座内容を検討する。

8. 頼まれてやっても9月の土日は参加者少ないです。土日は講師に特別手当出しては？
9. 受講者アンケートにもありますが、現在勤めていない、または非常勤の人に対する教員免許状更新講習の連絡に課題があるようです。大学だけでは難しいかもしれませんが、卒業生への対応など、検討が必要かもしれません。
10. 保育所勤務の方が幼・小コースがあるのに、中・高コースを受講するのはどうしてなのか？対象コースをしっかりと本人に確認していただきたい。【選択必修パック】
11. 可能な限り、秋田大学を会場にしてほしい。【選択必修パック】
12. 幼・小コースなのに、小学校教諭の参加者が1名というバランスに欠けた参加状況は、幼保園・小学校の交流のよい機会として参加された先生方には申し訳なく感じました。小学校関係者の参加者が少なかった要因として時期的な問題が考えられると思います(9月下旬)。開催時期の検討をお願いします。【選択必修パック】
13. 県内の幼保関係の方たちからは定員から漏れて受講できなかったという声が届きます。ニーズの把握ができず、開講の計画を立てる際に悩みます。(今年は人数を10名増やしました。)【選択必修】
14. 来年度は、受講できる教員の学科をもう少し広げて実施しようと思います。【選択必修】
15. 1回目は中総体と重なり、中学校の先生が少なく、今回は小学校の先生の参加がなかった。日程なのか、講義内容に魅力が感じられなかったのか…。【選択必修】
16. 大館の場合は前泊させてほしい。【必修】

7 その他

1. 自分自身も大変勉強になりました。
2. 講習の日程ですが、1~2か月前くらいでも設定可能であればいいと思います(手続き的に難しいのだと思いますが)。半年以上先なので、希望日時を決めるのが難しいです。
3. 評価について、S~Fの評価は必要なのでしょうか。「受講者に対しては合格か不合格かの判定のみを知らせます」とのこと。よって評価も「合」「否」のみであれば負担軽減になります。県教委等へ報告のため必要ということであれば、仕方ありませんが。

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-503791号	【選択】地域生活とスポーツ	ライフスタイルに依じたスポーツ活動の推進や住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備は、今日のスポーツ政策における重要な課題となっている。本講習では、現代社会において着目される人びとの地域生活を基点として、これらの政策課題に関連した取り組みの概要とその問題性についての理解を深める。	伊藤恵造(教育文化学部准教授)	秋田県秋田市	6月3日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校(保健体育)、高校(保健体育)	40人	21人
平29-10012-503792号	【選択】小学校理科における効果的な観察・実験	小学校理科教科書に記載されている観察・実験について検討を行い、どのような点に留意するべきであるかを学習目標を達成できるのか、さらにどんな工夫ができるのかについて、実験・観察・実験を行いつつながら、また、その観察・実験のバックグラウンドとなる理論についての理解を深める。	田口瑞穂(教育文化学部講師)	秋田県秋田市	6月3日(土)	6時間	小学校	20人	13人
平29-10012-503793号	【選択】美術教育における題材体験(平面)	美術教育における平面の様々な表現を体験して、児童・生徒の関心・意欲・態度を高め、表現する力を伸ばす指導力を身に付ける。併せて題材などを開発する力を身に付ける。	長瀬達也(大学院院教育学研究科教授)	秋田県秋田市	6月3日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校(美術)、高校(美術)	12人	12人
平29-10012-503795号	【選択】総合的な学習の時間と地域創生「食と文化」	総合的な学習の時間を充実させるために、地域の伝統的な食文化や史跡などの教材化を通して、授業力の向上を図る。当日は、秋田県内縦貫鉄道とその分岐地域から地域課題を特定し、地域課題解決のためのフィールドワーク及び教材開発に関する講義・試験が主な内容となる。	濱田純(秋田大学北秋田分校長)	秋田県北秋田市	6月3日(土)	6時間	小学校、特別支援学校、中学校(全教科)、高校(全教科)	30人	0人
平29-10012-503797号	【選択】男鹿半島のジオパークで学ぶ大地の歴史	男鹿半島・大湯ジオパークにおける小学生～高校生のいすれかの集団による野外実習を想定した実践的な講習を行う。講習では、野外学習計画立案の仕方、男鹿半島の野外学習地における地質学習に好適な場所とその意義、児童生徒の安全確保のための下見のポイント、災害発生等緊急高時の対応策などについて、過去の実践例をもとに解説する。このような講習を通じて、野外学習の意義と安全確保について理解させることをねらいとする。	川村教一(教育文化学部教授)	秋田県秋田市、男鹿市	6月4日(日)、6月11日(日)	12時間	小学校、特別支援学校、中学校(理科)、高校(理科)	20人	15人
平29-10012-503798号	【選択】「人生の場」プロジェクトを用いた特別活動の実践と検証	特別活動の時間に含まれるキャリア教育と関連させた「人生の場」プロジェクトを実践する研究を行い、その効果的検証の取組みについての発表、夏休みの前後に各所通校で「人生の場」を課題として十二月の講習では全員がその重要活用・課題点について発表し、お互いに討論し合う内容を試験とする。講義3時間、実践前後の発表演習討論の計12時間、【人生の場】プロジェクトは困難な学習環境にある子どもたちへのナラティブアプローチを活用した教材。	森和彦(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	6月10日(土)、12月16日(土)	12時間	特別支援学校の中学部・高学部、ならびに中学校、高校で特別活動の時間を担当できるもの	10人	0人
平29-10012-503799号	【選択】小学校教師の数学的活動	数学的活動とは、児童が目的意識を持って主体的に取り組む習算にかかわりのある様々な活動を意味する。具体的には「考える」「調べる」「比べる」「表す」「使う」「振り返る」といった活動であり、それらが算数を学ぶ姿、自ら算数を学び探っていくことにつながる。活動からは全員が一連の意識的なプロセスの形成には、それをデザインする教師の経験が重要である。本講習では、児童の数学的思考力を育む民間を分析し、授業化を検討していく。	田中誠祐(大学院院教育学研究科准教授)、佐藤学(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	6月10日(土)、7月1日(土)	12時間	小学校	20人	8人
平29-10012-503800号	【選択】保健体育科教育学概論―体育の授業をつくる・活かす―	体育の目標や学習内容を確認し、各運動領域の特性を習得するための教材づくり、単元計画の立案の留意点を学ぶ。また、授業をふりかえるための授業研究の方法や評価項目についても検討を行う。	松本奈緒(教育文化学部准教授)	秋田県秋田市	6月10日(土)	6時間	小学校、中学校(保健体育)、高校(保健体育)	50人	13人
平29-10012-503801号	【選択】食品科学の最新動向(食の安全・確保、健康維持機能の活用、世界の食糧供給構造について)	【全体の概要】食品科学に関する基礎知識及び身近な食をめぐる様々な問題について解説する。【食の安全と安心】放射能汚染問題や学校給食におけるアレルギー等々の食の安全における問題について解説する。【食とメタボリック症候群】急増するメタボリック症候群の要因を説明し、食の健康維持機能について解説する。【食の近未来】世界の食糧供給構造や、わが国の近未来における食の安全確保について解説する。	秋山美穂(秋田県立大学生物資源科学部応用生物科学科教授)	秋田県秋田市	6月10日(土)、6月11日(日)、6月17日(土)	18時間	幼稚園、小学校、特別支援学校(理科、家庭)、中学校(理科、家庭)、高校(理科、家庭、農業、工業、水産)、養護教諭、栄養教諭	30人	14人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-503803号	【選択】特別支援教育－障害児の教育Ⅱー	我が国は、国連の「障害者の権利に関する条約」に批准し、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築をめざしています。講習では、インクルーシブ教育の理念、求められる合理的配慮と真摯な態度の醸成、今後学校教育に求められる取組について、講習を交えながら考えていきます。	藤井慶博（大学院教育学研究科教授）	秋田県北秋田市	6月17日（土）	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、高校全教科、養護教諭、栄養教諭	40人	30人
平29-10012-503806号	【選択】近世城下町の構造－秋田藩の城下町を事例にフィールドワークー	江戸時代は都市の時代といわれる。諸藩は領国を治め、また遠征を全国経済に結びつけるため領国の中心に城下町を建設した。それは全国共通のある基本設計のもとに造られた近世町制であった。本講習は、そうした近世城下町の構造を江戸時代の社会構造の観点から解説し、その上で実際に城下町を歩くフィールドワークをおこなう。	渡辺英夫（教育学文化学部教授）	秋田県秋田市	6月17日（土）	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校（社会）、高校（地理）	10人	10人
平29-10012-503808号	【選択】近世日本海運の展開と秋田	近世、江戸時代は米経済の時代であり、年貢米を中央市場に出荷する必要性から河川水運と海運を連結した水運機構が全国規模で整備された。それは、寛政参藩が通運契約で御船を雇用する方式だったが、日本海沿岸にはそれとは違い自己資本で積荷を買い込み、自他の船に廻漕して販売を繰り返すという特徴的な海運を展開した。こうした日本海運の具体的な実態について秋田から全国を見通す視点について考察したい。	渡辺英夫（教育学文化学部教授）	秋田県秋田市	6月18日（日）	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校（社会）、高校（地理）	10人	7人
平29-10012-503810号	【選択】言語表現の可能性を探る	この講習では言語表現の可能性について考えます。そのために、まずは言葉の仕組みや働きを言語学的視点から分析します。その分析をもとに言葉の持つ力、その逆の弱さ、盲点などを要所を交えて検討します。それらを総合的に眺まえ、言葉が学校教育ならびに日常の言語生活において果たしている役割を追究します。	大橋純一（教育学文化学部教授）	秋田県秋田市	6月24日（土）	6時間	中学校（国語）、高校（国語）	30人	12人
平29-10012-503811号	【選択】小学校理科の天文実習	主として理科を専攻としていない小学校教員、地学を専攻としていない中学校理科教員を対象として、小学校理科のうち天文観測について、学習指導要領記載の学習項目について解説すること、また、理科教育学（地学）の視点から最近の研究取組（児童の天体認識や天体観察の実態など）を紹介する。また、天体観察方法や教材開発について実習を行い、小学校4年生もしくは6年生の理科授業のための教材研究の指針を与える。	川村教一（教育学文化学部教授）	秋田県秋田市	6月24日（土）	6時間	小学校、中学校（理科）	20人	7人
平29-10012-503812号	【選択】思春期の交友関係と学校～友だち関係・恋愛からいじめまで～	この講習では、具体的なデータをもちに、①「思春期の子どもの心」として、友だちとはどのような存在なのか？②「思春期の子どもの心」として、恋愛とはどのような意味を持つのか？③「友だちがいじめを止められないのはなぜか？」という3つの疑問を解き明かすことによって、彼らが学校でどのような態度を生きているのかを考察します。その現状を踏まえつつ、実践的な解決策を模索していきます。	鈴木翔（大学院理工学研究科助教）	秋田県秋田市	6月25日（日）	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、養護教諭、中学校全教科、高校全教科、栄養教諭	30人	30人
平29-10012-503813号	【選択】現代社会における学校・教育と不平等・格差	教育と学校における階層の「再生産」や不平等、現代社会における不平等に関する社会学や政治学、経済学、哲学などの文献を読みながら、現代社会の特性とそのなかでの学校と教育、階層、不平等、格差の問題について考えていきます。教育での不平等の問題に隣接せず、平等とはどのようなことなのか、という問題について、さまざまな考え方をこの講習の目標にします。	和泉浩（教育学文化学部教授）	秋田県秋田市	7月1日（土）～7月2日（日）	12時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、養護教諭	20人	12人
平29-10012-503814号	【選択】近代文学の読解	明治以降、昭和にかけての近代小説をおもな題材とする。語り方、登場人物・物・生きものの関係など、読解の観点について考える。また、作品が発表された時代・社会的背景、文芸思潮や文学観との関連をふまえて考える。	山崎義光（教育学文化学部准教授）	秋田県秋田市	7月1日（土）	6時間	中学校（国語）、高校（国語）	30人	10人
平29-10012-503815号	【選択】ICTを活用した理科授業の構想	教科の学習目標を達成するために教師や児童生徒がICTを活用することを求めている。ここでは、理科の学習において、教師が授業の中で効果的に活用する方法や、児童生徒が授業やその前後で活用する方法を学ぶ。次に、ICTの活用場面を想定した教材作成実習を体験する。それらを受講者同士で互いに評価し合うことにより、実際の授業で生かせるものに仕上げる。	田口瑞穂（教育学文化学部講師）	秋田県秋田市	7月1日（土）～7月2日（日）	12時間	小学校、中学校（理科）	10人	0人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-503807号	【選択】近世城下町の構造－秋田藩の城下町を事例にフィールドワーク	江戸時代は都市の時代といわれる。諸藩は領国を治め、また藩経済を全国経済に結びつけるため領国の中心に城下町を建設した。それは全国共通のある基本設計のもとに造られた都市計画だった。本講習は、そうした近世城下町の構造を江戸時代の社会構造の観点から解説し、その上で実際に城下町を歩くフィールドワークをおこなう。	渡辺英夫(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	7月8日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校(社会)、高校(地歴)	10人	10人
平29-10012-503816号	【選択】美術教育における鑑賞学習	美術教育における鑑賞学習の指導力を身に付けるために、鑑賞学習の基礎的な知識を身に付け、さらに美術館の鑑賞を体験する。そして、鑑賞学習の授業案を作成する。特に児童・生徒の関心・意欲・態度を高めることを主眼とする。	長瀬達也(大学院院教育学研究科教授)	秋田県秋田市	7月22日(土)	6時間	小学校、特別支援学校、中学校(美術)、高校(美術)	16人	16人
平29-10012-503818号	【選択】高校地学基礎教材開発演習(天文・気象・海洋領域)	中等教育理科・地学領域、特に新しい高等学校学習指導要領理科の科目「地学基礎」の内容のうち天文・気象・海洋領域について、主として地学を専攻しない教員を対象として学習指導要領記載の学習項目について解説するとともに、教科内容的な立脚から最近の自然科学的な知見を解説する。これら学習項目の教材を開発する際の素材の選定などについて、実践的な例を取り上げながら演習を行う。	川村教一(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	7月8日(土)	6時間	中学校(理科)、高校(理科)	10人	0人
平29-10012-503809号	【選択】近世日本海運の展開と秋田	近世、江戸時代は米経済の時代であり、年貢米を中央市場に出荷する必要性から河川水運と海運を連結した水運機構が全国規模で整備された。それは、幕府諸藩が運賃契約を締結して船隻を運用する方式だったが、日本海沿岸にはそれとは違い自己資本で積荷を買い込み、なかには他の藩に廻漕して販売を繰り返すという特徴的な海運が展開した。こうした日本海海運の具体像を検討することにより秋田から全国を見通す視点について考察したい。	渡辺英夫(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	7月9日(日)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校(保健体育)、高校(地歴)	10人	6人
平29-10012-503819号	【選択】運動が苦手な子どもへの学習指導	体育や保健体育において重要な教材であるボール運動・球技、器械運動(マット、鉄棒、とび箱)、水泳、縄跳び運動などの中から、一般に子どもたちにとって苦手とされる運動をいくつか抽出し、それらの運動の発育・発達に即して学習指導法を実践的に学ぶ。	佐藤清(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	7月15日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校(保健体育)、高校(保健体育)	20人	19人
平29-10012-503820号	【選択】部屋割り論法と存在性証明	部屋割り論法(間の集積原理)は高等学校学習指導要領(数学編)において、整数の性質に関連して扱われている。高等数学における存在性証明における有力な手段であるが、学習指導要領の他の項目と性格が異なり、高校生にとって分りにくい面がある。本講習では部屋割り論法の整数の性質への応用以外に高校生が興味を引くであろう種別別の問題を取り上げその有用性を示し、存在性証明の意義について考察する。	山村明弘(大学院理工学研究科教授)	秋田県秋田市	7月15日(土)	6時間	高校(数学・情報)	10人	3人
平29-10012-503802号	【選択】食品科学の履修線(食の安全・確良・価値維持機能の活用、世界の食糧供給構造について)	【全体の概要】食品科学に関する基礎知識及び最近の食をめぐる様々な問題について解説する。【食の安全と安心】放射能汚染問題や学校給食におけるアレルギー等の食の安全に係る問題について解説する。【食とメタボリック症候群】急増するメタボリック症候群の実態を紹介し、食の健康維持機能について解説する。【食の近未来】世界の食糧供給構造や、わが国の近未来における食の安全保障について解説する。	秋山美展(秋田県立大学生物資源科学部応用生物科学科教授)	秋田県秋田市	7月15日(土)～7月17日(月)	18時間	幼稚園、小学校、特別支援学校(理科、家庭)、高校(理科、家庭、農業、工業、水産)、看護、教諭、栄養教諭	30人	13人
平29-10012-503821号	【選択】美術教育の彫刻(塑造)について(題材・素材体験)	美術教育における彫刻表現(塑造表現)の題材となるテーマの発想と、実際に彫刻作品を制作する素材を研究する。題材を用い、自然硬化する粘土人体系環や動物、植物など、授業に活用しやすい素材を学ぶ。立体表現に不可欠な空間把握能力や触覚による量を把握する能力を向上させさせる。向よ「制作する喜び・楽しさ」を生徒に伝えるすべを学ぶ。	岩川善博(秋田公立美術大学美術学部美術学科准教授)	秋田県秋田市	7月15日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校(美術)、高校(美術)、養護教諭	10人	10人
平29-10012-503822号	【選択】環境問題のとらえ方	この講習では、環境問題について「環境と社会との関係」から考えていく環境社会学の考え方を説明し、どのように環境問題や、自然と社会との関係、自然を活用した観光としての「グリーンツーリズム」などにとらえてもらえることができるのかを考えていきます。また、環境問題についての考え方は他の社会問題についても応用できるため、この講習をおして、社会問題についての社会的な考え方も身につけてもらうことを目標とします。	和泉浩(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	7月22日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、高校全教科	20人	19人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-503823号	【選択】秋田県の自然エネルギーと熱電変換技術	熱電変換は熱エネルギーを直接電気に変換できる技術で、分散した熱エネルギーの回収に適していることから、エネルギーハブとしての期待が強い。一方、秋田県独自の自然エネルギー資源(湯田原、火山)や水資源が豊富であり、自然エネルギーの利用という観点から環境的である。この講習では、熱電変換技術の基礎および秋田県の自然エネルギー利用への応用の可能性について学ぶ。	長南安紀(秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科助教) 山口博之(秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科准教授) 布田深(大学院理工学研究科准教授)	秋田県由利本荘市	7月22日(土)	6時間	小学校、中学校(理科・技術)、高校(理科・工業)	20人	7人
平29-10012-503824号	【選択】体験学習をとり入れた家庭科指導案の工夫と展開	家庭科教育を通して生活実践力とたくましく生きる力を育む「体験型・探求型カリキュラム」を作成することにも、教科指導上の課題解決を図るための方法を検討する。	佐々木信子(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	7月23日(日)～ 7月24日(月)	12時間	小学校、中学校(家庭科)、高校(家庭)	10人	3人
平29-10012-503825号	【選択】学校教育と憲法	15歳選挙権に関わる問題(政治教育はどのようなように行えばよいのか、高校生の政治活動はどこまで認められるのか等)や学校における児童・生徒の基本的権利など、学校教育において憲法をどのように活かすことができるのかについて、さまざまな事例を検討することを通して解説する。	榎久敏(教育文化学部講師)	秋田県秋田市	7月23日(日)	6時間	小学校、中学校(社会、高校(地歴・公民))	30人	6人
平29-10012-503826号	【選択】地域を体験できる日本史	秋田県内の遺跡を見学し、「地域の歴史」を素材に体験学習用の教材作成を行う。小学校・社会、中学校・社会、高等学校・地歴(日本史)、および総合学習に対してできるよう、メニューを提案する。また、「生きる力」を養える教材作成のメニューを提案する。	渡部育子(秋田大学名誉教諭)	秋田県秋田市、大仙市	7月23日(日)、 7月28日(金)、 7月30日(日)	18時間	小学校、特別支援学校、中学校(社会)、高校(地歴・公民)	20人	11人
平29-10012-503883号	【選択】高校数学からの微分方程式	高校数学(微分積分)の延長として、微分方程式(変数分離形・一階線形)の初歩を学ぶ。具体的には微分方程式の解の求め方(計算)と簡単な理論(証明)を行う。また高校数学に習れる「平均値の定理」、『原始関数』、『定積分』などの基礎定理の復習も行い、微分積分のより深い理解を目指す。	原田潤一(教育文化学部准教授)	秋田県秋田市	7月23日(日)	6時間	高校(数学)	20人	5人
平29-10012-503828号	【選択】Speakingについての文法講読	次期学習指導要領において指導と評価の向上が求められているSpeakingについて、知識を豊かにし、授業を向上させるための英語の文法を学び、参加者同士が問題点を共有し、いくつかの観点についてディスカッションする。(英語リスニング30%程度)。筆記試験は、文法講読で得る知識についての理解度と、実践の改善に知識を生かす省察を問う。	佐々木雅子(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	7月25日(火)	6時間	小学校、中学校(英語)、高校(英語)	10人	6人
平29-10012-503829号	【選択】木材の科学	石油の大量消費により生活は豊かになったが、地球温暖化などのグローバルな問題も生じており、21世紀には循環型資源に基づいた社会に変換することが求められている。そのためには、地球上で最も多量に存在する有機炭素資源である木材を効果的に利用することが必要である。本講習は、1)木材の成り立ちや化学的組成、物理的性質など木材の科学的知見を6時間、2)木質資源の現状とCO2削減と温暖化抑制への寄与などについて6時間、3)製材や木質材料、紙、アルコロール発酵や土質の利用などの代表的な利用について6時間を予定している。	中村孝(秋田県立大学木材高度加工研究所教授) 林和行(秋田県立大学木材高度加工研究所教授) 山内繁(秋田県立大学木材高度加工研究所教授) 高田英彦(秋田県立大学木材高度加工研究所教授) 栗本康司(秋田県立大学木材高度加工研究所教授) 佐々木雅子(秋田県立大学木材高度加工研究所教授) 川井志生(秋田県立大学木材高度加工研究所教授) 須田由希(秋田県立大学木材高度加工研究所教授) 岡崎孝典(秋田県立大学木材高度加工研究所教授) 山内泰文(秋田県立大学木材高度加工研究所教授) 足立幸尚(秋田県立大学木材高度加工研究所准教授)	秋田県能代市	7月25日(火)～ 7月27日(木)	18時間	中学校(数学、理科・技術)、高校(数学、理科・工業)	10人	7人
平29-10012-503837号	【選択】地域素材教材開発演習	秋田の地域素材(小学校における3・4年社会科)のみならず、中学校、高等学校においても生じたものの学習圏や生活圏に存在する身近な地域素材は、社会科(地理歴史科、公民科)、教育実践を豊かにするものである。本講習では、そうした地域素材を用いた実際の教材開発を試みたい。	外池智(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	7月26日(水)～ 7月27日(木)	12時間	小学校、中学校(社会)、高校(地歴・公民)	12人	2人
平29-10012-503830号	【選択】豊かで確かな力を身につける物語・小説の授業入門	子どもたちに豊かで確かな語学力を身につけさせる物語・小説の授業について、実践的に講習を展開する。作品の構成・構造、事件展開の仕掛け、人物の容姿・レトリック、吟味・批評などに関する指導のあり方について、現行教科書教材を思いながらいま具体的に検討していく。子どもたちが主体的・対話的に学んでいく探究型授業のあり方についても触れる。	阿部昇(大学院教育学研究科教授)	秋田県北秋田市	7月28日(金)	6時間	小学校、中学校(国語)	20人	18人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-503840号	【選択】特別支援教育－発達障害児の理解と支援	障害児の教育は「特別支援教育」から「特別支援教育」へと大きく転換し、障がいのある幼児児童生徒の教育は、特別な指導の場だけでなく、通常の学級においても必須になっている。したがって学校の教育は、「特別支援教育」に関する一層の専門性が必要とされている。その一助となることを期待し、本講習では、学校における「教員になる子」を取り上げ、発達障害等の特性を説明しながら具体的な支援方法について学ぶ。	鈴木徹(教育文化学部講師)	秋田県横手市	8月4日(金)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、高校全教科、養護教諭、栄養教諭	50人	50人
平29-10012-503843号	【選択】算数・数学(小中高)を貫く教材理解	近年、諸研修が指導形態に偏っていると感じます。教材自体・カリキュラム構造的な理解を深めることで、小中高の連続も一層強固なものになるはず。例①(比例/割合)→一次関数(中)→接線(高)などは典型的な一貫教材です。②論理用語「かつ」は高校で習いますが、その萌芽は、何と小2算数の教科書に見ることが出来ます。そのほか、本講習では、①児童生徒の心理と②書籍の形成について教材理解を深めます。	根岸均(秋田大学横手分校長)	秋田県北秋田市	8月4日(金)	6時間	小学校、中学校(数学)、高校(数学)	12人	12人
平29-10012-503845号	【選択】生物分野の実験教材を体得する	現在の教育現場は、生物分野の教材研究を行う際に「時間的・技術的・設備的制約」が多く、十分な教材研究が行われているとは言えない状況にある。特に小学校教員の現場では、理科の実験を不備とすする教員が少なからず存在する。そこで本講習では、小・中・高の教育現場における生物分野の教材作りを受講者ご自身に体験してもらう。具体的には、顕微鏡を用いた教材作り・解剖教材作り・デジタル教材作りなどを体験してもらつ。	石井照久(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	8月5日(土)～8月7日(月)	18時間	小学校、中学校(理科・家庭・情報・農業・工業・水産)	16人	2人
平29-10012-503804号	【選択】特別支援教育－障害児の教育Ⅲ	我が国は、国連の「障害者の権利に関する条約」に批准し、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築をめざしています。講習では、インクルーシブ教育の理念、求められる合理的配慮と基礎的環境整備、今後学校教育に求められる取組について、演習を交えながら考えていきます。	藤井慶博(大学院教育科学研究科教授)	秋田県秋田市	8月5日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校全教科、養護教諭、栄養教諭	50人	50人
平29-10012-503846号	【選択】情報デザイン入門	一般的に「デザイン」は造形表現の手段として扱われるが、現在では「世の中の諸問題を解決する手段」として重視されている。学校現場の場面でも、学習環境の改善、教材研究の効率化など、有効に作用する部分が多量に存在する。このデザインを「情報」という面からみると「わかりやすさ」をこのようにつくっていくというところがポイントとなる。本講習では「わかりやすさ」のデザインをキーワードに、「情報デザイン」の基礎的な内容について理解を深めるとともに、情報デザインを展開する上で必要な知識・技術の習得を目的とする。	石井宏一(教育文化学部准教授)	秋田県秋田市	8月5日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、高校全教科	20人	19人
平29-10012-503847号	【選択】世界を変えた化学の発明	身の回りの物質を通して化学と人間生活とのかかわりについて理解を深めることとが、中高理科における学習目標の一つとなっている。本講習では、現在の我々の生活を支えている化学物質を取り上げ、その発明の経緯と人間生活に与えた影響について学ぶことを目標とする。合成染料、窒素肥料、カリン、プラスチックなど、人間の生活様式を大きく変えるに至った物質について議論する。	清野秀岳(教育文化学部准教授)	秋田県秋田市	8月5日(土)	6時間	小学校、中学校(理科)、高校(理科・工業)	30人	7人
平29-10012-503849号	【選択】魏晉南北朝隋唐史研究における近年の動向と成果	中国の魏晉南北朝隋唐史の研究における近年の動向と成果について解説する。また重要な成果については個別論文を講読し、先行研究との相違や相補となる史料の解釈等について解説する。その上で実証過程や結論の妥当性について受講者全員で検討・議論し、理解を深める。取り上げる事項は、高等学校の世界史教科書の内容から重要な高いものを選ぶ。	内田昌功(教育文化学部准教授)	秋田県秋田市	8月6日(日)	6時間	中学校(社会)、高校(地歴)	15人	4人
平29-10012-503850号	【選択】平面幾何の世界	平面幾何の定理は、図形の作図に有用な技術として使われてきた。中学校、高等学校で発展的内容として扱われる定理について解説し、平面幾何の定理と作図問題との関連について理解を深める。講習では、様々な正五角形の作図を通して定理の応用について学ぶ。	山口祥司(教育文化学部准教授)	秋田県秋田市	8月6日(日)	6時間	中学校(数学)、高校(数学)	20人	4人
平29-10012-503851号	【選択】Activate Your English!	学習意欲が低い生徒集団を指導することも視野に入れ、生徒の意欲、関心を高めるための授業作り、補助教材(ハンドアウト)作成、審査及び小テストの作成と評価の方法について実践的な立場から幅広く講じる。中学校、高等学校のいずれかに議論が囀るのを避けるため、担当者は、中学校教諭経験を持つ者、高校教諭経験を持つ者の名が担当する。トピックによって、担当が日本語と英語を使い分けて講義を進める。	内田浩樹(国際教育大学院大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科教授) 町田智久(国際教育大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科准教授)	秋田県秋田市	8月6日(日)	6時間	中学校(英語)、高校(英語)	10人	9人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-503841号	【選択】特別支援教育～発達障害児の理解と支援一	障害児の教育は「特殊教育」から「特別支援教育」へと大きく転換し、障がいのある幼児児童生徒の教育は、特別な指導の場だけでなく、通常の学級においても必須になっている。したがって学校の教員は、「特別支援教育」に関する一層の専門知識及び専門性が求められている。その一助となることを期待し、本講習では、学校における「教員になる子」を取り上げ、発達障害等の特性を説明しながら具体的な支援方法について学ぶ。	鈴木徹（教育文化学部講師）	秋田県秋田市	8月7日(月)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、高校全教科、養護教諭、栄養教諭	50人	50人
平29-10012-503844号	【選択】算数・数学（小中高）を楽しく理解	近年、諸研修が指導形態に偏っていると感じます。教材自体・カリキュラム構造的な理解を深めることで、小中高の連携も一層強固なものになるはず。例①比例(小) → 一次関数(中) → 接線(高)などは典型的な一貫教材です。②論理用語「かつ」は高校で習いますが、その萌芽は、何と小2算数の教科書に見ることが出来ます。そのほか、本講習では、①児童生徒の心理と教材、②書誌の形成について教材理解を深めます。	根岸均(秋田大学機手分校長)	秋田県機手市	8月9日(水)	6時間	小学校、中学校(数学)	12人	12人
平29-10012-503852号	【選択】発達・シャドーイング・リスニング指導理論と実践	まず、リスニング指導に必要な発音指導について、その方針や基礎を確認する。そして、生徒のリスニング力を伸ばすために、「どんな目的でどんな言語活動を、いつ取り入れるべきか?」をテーマとして、シャドーイング・音読の様々な方法について基礎的な理論をもとに、再検討する。最後に実際の指導場面を想定し、プランニングを行い、短い発表を行う。	濱田陽(教育推進総合センター准教授)	秋田県秋田市	8月9日(水)	6時間	中学校(英語)、高校(英語)	20人	16人
平29-10012-503853号	【選択】基礎から応用まで、わかりやすい最新バイオテクノロジー	バイオテクノロジーはますます脚光を浴びている。最近では、ヒト多能性細胞を遺伝子操作などで作ることもできるとなり、血用への期待が高まっている。バイオ技術はDNAを取り扱うことから発展してきた。そこで遺伝子DNAを実験に生物から抽出する実験を行い、教室現場での応用について考える。また、最新のバイオテクノロジーについて詳しく易く解説し、その倫理的側面についてにも生徒と一緒に考える材料を提示する。	福島淳(秋田県立大学生物資源科学部応用生物科学科教授) 水野幸一(秋田県立大学生物資源科学部応用生物科学科准教授) 志村洋一(秋田県立大学生物資源科学部応用生物科学科准教授)	秋田県秋田市	8月9日(水)	6時間	小学校、特別支援学校、中学校(理科)、高校(理科・工業・水産)	20人	7人
平29-10012-503854号	【選択】演劇訓練スキルによるコミュニケーション能力の向上	・世界はグローバル化とその逆の流れが平行して進み、正解のない課題、経験したことがない課題と直面する時代。このような「多文化共生」時代を生かす子どもたちには、コミュニケーション能力の育成が極めて重要である。・演劇訓練スキルによるコミュニケーション能力向上を目指し、教師自身が身体性や身体感覚を豊かにすることで、他者との関係づくりが進むことを体感する。そして、児童生徒のコミュニケーション能力を高める実践的な指導力を身に付ける。	根岸均(秋田大学機手分校長) 栗成宏(非常勤講師)	秋田県山北市	8月10日(木)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、養護教諭、栄養教諭	30人	29人
平29-10012-503855号	【選択】実験で学ぶ生物の遺伝子DNA～自らDNAを抽出する～	遺伝子DNAは、医療現場、個人の遺伝情報管理、食品の産地や遺伝子組換えのチェック、犯罪捜査と親子鑑定、考古学等への利用、など日常生活・食生活のあらゆる面で非常に身近な存在となっていて、その理解を深めることは全教科、全教科で必要かつ重要な事項である。また簡易DNA抽出法を伝授するので教育現場での実践が可能となる。(主な内容：簡易DNA抽出法の体験、簡易な抽出と解析技術の体験、日常生活での利用法の理解)	石井照久(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	8月10日(木)～ 8月12日(土)	18時間	小学校、中学校(理科・技術・家庭)、高校(理科・家庭・情報・農業・工業・水産)、栄養教諭	16人	11人
平29-10012-503857号	【選択】作物の病害診断Ⅱ(電子顕微鏡と生物工学を用いたウイルス病診断)	作物の生産を阻害する病害虫による被害の予防、回避、および防除には、発生生態の知識と的確かつ迅速な病害虫の診断技術が必要である。本講習では、秋田県内で発生している病害虫を材料として、医学分野でも顕微鏡に用いられている、血清学、あるいは遺伝子工学を利用した病原菌の診断技術についての実践と講義を行います。	藤野一(秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科教授)	秋田県秋田市	8月10日(木)	6時間	高校(理科・農業)	10人	0人
平29-10012-503858号	【選択】成長を引き出す教育相談～解決志向・予防・開発のカウンセリング技法	過去・現在に陥る原因(過去型)ではなく、教育相談に使える未来志向・解決志向の問題解決の技法について学ぶ。また問題解決だけでなく、予防・開発教育につながるカウンセリング技法について、グループワーク・ロールプレイング等を通して体験的に学ぶ。	渡部昌平(秋田県立大学総合科学教育研究センター准教授)	秋田県秋田市	8月10日(木)	6時間	小学校、中学校全教科、高校全教科	40人	39人
平29-10012-503859号	【選択】食・食育を生物学から考える～自ら食材を解剖・観察する～	食とは生き物をあのがたぐいたぐたくことである。食材を扱う「食育」を実践で考えることは教員の資質向上を目指す「食」を生物学の視点から解説する。なぜ食う食われるのか成立するのか・消化や生きているとはどういうことなのかを、生き物の起源、細胞の細胞、栄養素および遺伝子について学ぶとともに、実際に受講者自身で生き物の解剖と観察を行うことにより理解する。食物アレルギー問題、遺伝子組換え作物の安全性、地産地消等も扱う。	石井照久(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	8月17日(水)～ 8月19日(土)	18時間	小学校、中学校(理科・技術・家庭)、高校(理科・家庭・情報・農業・工業・水産)、栄養教諭	16人	10人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-503860号	【選択】学校給食における地産地消と地域の食文化	学校給食の教育的意義や現状及び課題を踏まえ、食育や地産地消の視点を家庭科教育と関連づけて考察する。また、地域の食文化の特徴や現状を把握し、郷土食を給食メニューに導入する際の工夫点を検討するとともに、地域の特産品や食文化を導入する際の課題や今後の方向性を検討する。	佐々木信子(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	8月17日(木)	6時間	栄養教諭	5人	5人
平29-10012-503861号	【選択】知恵の輪	遊びを通して数学を学ぶ、また、遊びに数学を見出すなどの活動は、算数・数学に対する関心・意欲・態度の育成を図る手立ての1つである。本講習はチャイニー・スズリントンという知恵の輪をモデルに、小学校算数科、中学校及び高等学校数学科の教材としてそれぞれ開発することを目指して、制作・解答の習熟及び教材開発の3段階で展開するものである。なお、知恵の輪を数学で捉えるとき、教え上げ、二進法及び数列という3つの方法を用いる。	杜威(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	8月17日(木)	6時間	小学校、中学校(数学)、高校(数学)	12人	11人
平29-10012-503864号	【選択】養護教諭に求められる今日的課題への対応	養護教諭が今日直面している課題の中から「学校カウンセリング」、「発達障害児の理解」、「生活習慣病対策」、「学校における救急対応」、「健康相談活動について」をとりあげ、講義とワークショップによる修得を目指す。	奥山明子(日本赤十字秋田看護大学教授) 斎藤和樹(日本赤十字秋田看護大学准教授) 磯崎富美子(日本赤十字秋田看護大学准教授) 菅田美(日本赤十字秋田看護大学教授) 渡部泰弘(秋田県立医療専門学校(校長)) 向部孝工(日本赤十字秋田看護大学准教授)	秋田県秋田市	8月17日(木)～ 8月18日(金)	12時間	養護教諭	30人	11人
平29-10012-503865号	【選択】保育内容の基礎と実践(幼児造形・幼児と自然・幼児理解)	子どもと自然、幼児造形、遊びなどの視点から、保育における発達や援助の方法、環境構成などについて学びを深める。	蛭田一美(聖園学園短期大学講師) 張田典子(聖園学園短期大学講師) 永井博敏(聖園学園短期大学学生部長・教授) 小笠原京子(聖園学園短期大学教授)	秋田県秋田市	8月17日(木)	6時間	幼稚園	60人	60人
平29-10012-503867号	【選択】現代社会と家庭	幼稚園教諭を対象に保護者の置かれている現状を理解し、その支援に役立つ内容としたい。そのために、最近の家庭の現状を理解し、その対応を探りつつ、相談援助に役立つ内容とする。現代の社会における様々な病理、児童虐待、DVなどにおける支援を取り上げ、困難にある保護者に対する個人としての、また、園としての支援を探りたい。	藤原法生(聖園学園短期大学講師) 佐々木久仁明(聖園学園短期大学非常勤講師)	秋田県秋田市	8月17日(木)	6時間	幼稚園	60人	35人
平29-10012-503869号	【選択】失敗しないアクティブ・ラーニング～児童・生徒の視点から考える	「生徒同士の対話」以外の各種アクティブ・ラーニング技法について理解するとともに、具体的な実践について学ぶ。児童・生徒の視点から、「児童・生徒がアクティブになる」手法について、グループワーク/フェイスカッション等を活用して体験的に理解する。	渡部昌平(秋田県立大学総合科学教育研究センター准教授)	秋田県秋田市	8月17日(木)	6時間	小学校、中学校全教科、高校全教科	40人	39人
平29-10012-503870号	【選択】作物の病害診断Ⅰ(顕微鏡の利用を中心とした糸状菌病の診断法)	作物の生産を阻害する病害虫を予防するためには、的確な診断技術と発生生態に関する知識が必要である。本講習では、秋田県内で発生する主要病害について、診断技術と発生生態に関する基礎的知識を実習形式で学ぶ。	古原隆光(秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科教授) 戸田武(秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科助教)	秋田県秋田市	8月17日(木)	6時間	中学校(理科)、高校(理科・農業)	10人	0人
平29-10012-503842号	【選択】特別支援教育－発達障害児の理解と支援－	障害児の教育は「特別支援教育」から「特別支援教育」へと大きく転換し、障がいのある幼児児童生徒の教育は、特別な指導の場だけでなく、通常の学級においても必須になっている。したがって学校の教員は、「特別支援教育」に関する一層の実践力及び専門性が求められる。その一助となることを期待し、本講習では、学校における「教員になる子」を取り上げ、発達障害等の特性を説明しながら具体的な支援方法について学ぶ。	鈴木徹(教育文化学部講師)	秋田県北秋田市	8月18日(金)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、高校全教科、養護教諭、栄養教諭	40人	39人
平29-10012-503862号	【選択】知恵の輪	遊びを通して数学を学ぶ、また、遊びに数学を見出すなどの活動は、算数・数学に対する関心・意欲・態度の育成を図る手立ての1つである。本講習はチャイニー・スズリントンという知恵の輪をモデルに、小学校算数科、中学校及び高等学校数学科の教材としてそれぞれ開発することを目指して、制作・解答の習熟及び教材開発の3段階で展開するものである。なお、知恵の輪を数学で捉えるとき、教え上げ、二進法及び数列という3つの方法を用いる。	杜威(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	8月18日(金)	6時間	小学校、中学校(数学)、高校(数学)	12人	8人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-503871号	【選択】学童期の栄養	学童期の栄養講習には、肥満と栄養不良、瘦せが挙げられる。肥満は、劣等感、引っ込み思案、運動能力の低下などの原因となり、心理的にも日常生活でも好ましくなく、過度の肥満は児童のメタボリックシンドロームを引き起こし、将来、生活習慣病になるリスクを高める。講習では学童期の肥満の原因、リスク、栄養アセスメント等について学習する。	連藤祥子（聖霊女子短期大学生活文化科准教授）	秋田県秋田市	8月18日（金）	6時間	栄養教諭	20人	6人
平29-10012-503866号	【選択】保育内容の基礎と実践（幼児造形・幼児と自然・幼児理解）	子どもと自然、幼児造形、遊びなどの視点から、保育における発達や援助の方法、環境構成などについて学びを深める。	坂田一美（聖園学園短期大学講師） 藤田典子（聖園学園短期大学講師） 永井博敏（聖園学園短期大学学生部長・教授） 小笠原京子（聖園学園短期大学教授）	秋田県秋田市	8月18日（金）	6時間	幼稚園	60人	55人
平29-10012-503868号	【選択】現代社会と家庭	幼稚園教諭を対象に保護者の置かれている現状を理解し、その支援に役立つ内容として、そのために、最近の家庭の現状を理解し、その対応を探りつつ、相談援助に役立つ内容とする。現代の社会における様々な病理、児童虐待、DVなどにおける支援を取り上げ、困難にある保護者に対する個人としての、また、園としての支援を探りたい。	藤原法生（聖園学園短期大学講師） 佐々木久仁明（聖園学園短期大学非常勤講師）	秋田県秋田市	8月18日（金）	6時間	幼稚園	60人	30人
平29-10012-503872号	【選択】幼児期の発達と教育の独自性	幼児期の発達の特性を「遊び」と「学び」をキーワードとして考える。そこから、幼児期の教育・保育の独自性とは何かという課題を、主に幼児の主体的活動と保育の意図という側面から、今日の課題を踏まえて考察する。	山名裕子（教育文化学部准教授） 奥山順子（教育文化学部教授） 瀬尾知子（教育文化学部准教授）	秋田県秋田市	8月19日（土）～ 8月21日（月）	18時間	幼稚園、小学校、特別支援学校	50人	49人
平29-10012-503872号	【選択】幼児期の発達と教育の独自性	幼児期の発達の特性を「遊び」と「学び」をキーワードとして考える。そこから、幼児期の教育・保育の独自性とは何かという課題を、主に幼児の主体的活動と保育の意図という側面から、今日の課題を踏まえて考察する。	山名裕子（教育文化学部准教授） 奥山順子（教育文化学部教授） 瀬尾知子（教育文化学部准教授）	秋田県秋田市	8月19日（土）～ 8月21日（月）	18時間	幼稚園、小学校、特別支援学校	50人	50人
平29-10012-503873号	【選択】指導法の応用と課題解決	指導法の基本的な型を確認・練習したのち、ベートヴエーン作曲『コロオラ』の序曲をメインの教材として指導実践の訓練を行います。この過程で各自の課題の改善を図ります。受講者は4台のピアノに分かれて片手だけでピアノの曲を弾きながら、伴奏の演奏に参加して頂きます。ピアノはみんな弾くので上手でなくても大丈夫です。指導者は各自持参の、安価なタイプの指揮棒は当日用意しておきます。試験は『コロオラ』の指導です。	石原慎司（教育文化学部講師）	秋田県秋田市	8月19日（土）	6時間	小学校、特別支援学校、中学校（音楽）、高校（音楽）	12人	6人
平29-10012-503863号	【選択】知恵の輪	遊びを通して数学を学ぶ、また、遊びに数学を見出すなどの活動は、算数・数学に対する関心・意欲・態度の育成を図る手立ての1つである。本講習は、等学校数学の教材として知恵の輪を7ツルに、小学校算数科、中学校及び高等学校数学の教材としてそれを開発することを旨として、制作・解答の習熟及び教材開発の3段階で展開するものである。なお、知恵の輪を数学で捉えるとき、教え上げ、二進法及び数列という3つの方法を用いる。	杜威（教育文化学部教授）	秋田県秋田市	8月19日（土）	6時間	小学校、中学校（数学）、高校（数学）	12人	0人
平29-10012-503874号	【選択】遺伝子から学ぶ最先端生物学	生物学は、遺伝子の本体であるDNAの理解によって様変わりしました。遺伝子のレベルで生物学を説明することが大分可能になってきました。今回、遺伝子のレベルで説明する生物学の講義をまとめたいとしました。遺伝子からDNA組換え技術、細胞や個体発生への理解、葉の開花法の新たな展開など、の課題を遺伝子を中心に講義をします。当日、テキストを配布する予定です。	村元元（秋田県立大学生物資源科学部応用生物科科学科准教授） 村田純（秋田県立大学生物資源科学部応用生物科科学科教授） 王敏銘（秋田県立大学生物資源科学部応用生物科科学科准教授）	秋田県秋田市	8月19日（土）	6時間	小学校、中学校（理科）、高校（理科・農業）	20人	3人
平29-10012-503875号	【選択】大人が支えるインターネットセーフティを考える	PCのみならず、スマートフォン、ゲーム機等、携帯型ネットワーク機器の普及により、子どもたちのインターネット利用はより身近になってきました。「ネットいじめ」や犯罪等のトラブルに巻き込まれる危険性が問題となっています。そこで、養護教諭や栄養教諭を含む学校関係者が、子どもたちのインターネット利用の問題を理解し、保護者や地域住民による子どもたちの健全なインターネット利用環境づくりのあり方について考えます。	鈴木翔（大学管理工学研究科助教） 森川勝太郎（秋田県教育庁生涯学習課社会教育課 主事）	秋田県秋田市	8月20日（日）	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校（全教科）、高校（全教科）、養護教諭、栄養教諭	15人	14人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-503876号	【選択】学校音楽教育における発声法と歌唱法の実践的指導法	音楽科教育の発声・歌唱指導における課題と対応について演習を行いながら考える。実技として呼吸体操、基礎発声、基礎練習等の発声法の基礎を行う。そして歌謡と音楽の歴史の概観を行いながら、歌謡技能の向上と指導法の工夫や改善方法について教員間で話し合いながら考えていく。	爲我井壽一(教育文化学部准教授)	秋田県秋田市	8月20日(日)	6時間	小学校、中学校(音楽)、高校(音楽)	12人	11人
平29-10012-503848号	【選択】世界を変えた化学の発明	身の回りの物質を通して化学と人間生活とのかかわりについて理解を深めることとが、中高理科における学習目標の一つとなっている。本講習では、現在の我が国の生活を支えている化学物質を取り上げ、その発明の経緯と人間生活に与えた影響について学ぶことを目標とする。合成染料、窒素肥料、カソリン、プラスチックなど、人間の生活様式を大きく変えるに至った物質について議論する。	清野秀岳(教育文化学部准教授)	秋田県大館市	8月26日(土)	6時間	小学校、中学校(理科)、高校(理科・工業)	30人	2人
平29-10012-503877号	【選択】小・中学校の作文評師法研修	全米学力調査NAEPの文章類別「P：読得」について、児童・生徒が書いた作文の分析を通して、多観点3段階の「評価基準」の設定と、該当例文の選定を行い、妥当性・信頼性の高い作文評価能力の習得を目指します。	成田雅制(教育文化学部教授)	秋田県横手市	8月27日(日)	6時間	小学校、特別支援学校、中学校(国語)	20人	7人
平29-10012-503805号	【選択】特別支援教育－障害児の教育Ⅲ－	我が国は、国連の「障害者の権利に関する条約」に批准し、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築をめざしています。講習では、インクルーシブ教育の理念、求められる合理的配慮と基礎的環境整備、今後学校教育に求められる取組について、演習を交えながら考えていきます。	藤井慶博(大学院教育科学研究科教授)	秋田県横手市	9月2日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校(全教科)、高校(全教科)、養護教諭、栄養教諭	50人	50人
平29-10012-503879号	【選択】英語教材研究の視点	本講座では、英語授業の準備を行う際の教材研究の視点について考察する。特に、OECDのPISA調査で指摘された、日本人学習者の問題点の一つである読解力を身に付けるために、このよるものが求められているのかについて、実際に読解のタスクを体験してもらいながら考えていく予定である。	若谷保彦(教育文化学部准教授)	秋田県横手市	9月2日(土)	6時間	中学校(英語)、高校(英語)	20人	3人
平29-10012-503881号	【選択】科学技術の進歩とエネルギー－医療と産業での放射線利用技術－	最新の科学技術とエネルギーが小中高の理科の学習内容とされている。これらの例として、中高の教科書には、医療や産業における放射線の利用が取り上げられており、本講習では、放射線についてその基礎から応用について学び、理解を深めることを目指す。研修項目、1.放射線の物理・化学的性質、2.身の回りの放射線、3.放射線の人体への影響、4.工業、農業での放射線の利用、5.医療における放射線の利用	岩田吉弘(教育文化学部教授)	秋田県横手市	9月2日(土)	6時間	小学校、中学校(理科)、高校(理科・工業)	20人	10人
平29-10012-503882号	【選択】ゆざわジオパークで学ぶ大地のつくりと変化	小学校や中学校理科の学習においては、実際の地層や露頭の観察を行う内容があるが、その野外観察の実施率は低い。その理由の一つとして、実際の露頭などでの指導方法に自信がない、ということが明らかになっている。そこで、ゆざわジオパークを利用しながら実際の露頭観察を行い、野外観察学習の実践を体験する。その上で、指導方法を学んだり考えたりすることで資質・能力を高め、現場にて野外観察学習を指導できるようにすることを目的とする。	山口瑞穂(教育文化学部講師)	秋田県湯沢市	9月2日(土)	6時間	小学校、中学校(理科)	15人	15人
平29-10012-503880号	【選択】英語教材研究の視点	本講座では、英語授業の準備を行う際の教材研究の視点について考察する。特に、OECDのPISA調査で指摘された、日本人学習者の問題点の一つである読解力を身に付けるために、このよるものが求められているのかについて、実際に読解のタスクを体験してもらいながら考えていく予定である。	若谷保彦(教育文化学部准教授)	秋田県秋田市	9月3日(日)	6時間	中学校(英語)、高校(英語)	20人	7人
平29-10012-503878号	【選択】小・中学校の作文評師法研修	全米学力調査NAEPの文章類別「P：読得」について、児童・生徒が書いた作文の分析を通して、多観点3段階の「評価基準」の設定と、該当例文の選定を行い、妥当性・信頼性の高い作文評価能力の習得を目指します。	成田雅制(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	9月3日(日)	6時間	小学校、特別支援学校、中学校(国語)	20人	5人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-503884号	【選択】科学技術の進歩とエネルギー—原子力エネルギーの利用—	最新の科学技術とエネルギーが小中高の理科の学習内容とされている。これらの例として、中高校の教科書に放射線性廃棄物などが取り上げられている。本講習では、原子力エネルギーの利用についてその基礎から応用について学び、理解を深めることを目標とする。研修項目 1.放射線と原子力 2.原子力発電のしくみ 3.核燃料の再処理 4.フレキシブル利用と高速増殖炉 5.放射性廃棄物の処理処分	岩田吉弘(教育文化学部教授)	秋田県横手市	9月3日(日)	6時間	小学校、中学校(理科・技術)、高校(理科・工業)	20人	10人
平29-10012-503885号	【選択】教育のなかの新聞とメディア・リテラシー	この講習では、学校の教育に取り入れられるようになっている「新聞」について、メディア論や社会学での研究をもとに、そのメディアとしての特性や教育で取り上げることの留意点、「メディア・リテラシー」の背景にあるメディアの考え方やその受容者にも考えていきます。このことをとおして、教育のなかでの新聞などのメディアの利用について、各受講者がみずから考えられるようになることを目標とします。	和泉浩(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	9月9日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、高校全教科	20人	20人
平29-10012-503794号	【選択】美術教育における題材体験(平面)	美術教育における平面の様々な表現を体験して、児童・生徒の関心・意欲・態度を高め、表現する力を伸ばす指導力を身に付ける。併せて題材などを開発する力を身に付ける。	長瀬達也(大学院教育学研究科教授)	秋田県秋田市	9月9日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校(美術)、高校(美術)	12人	11人
平29-10012-503886号	【選択】地球づくりワークショップ	地球づくりに関する講義とワークショップをおこなう。第1日目には、秋田県下で展開している地球づくり活動、地球資源活用と住民との関与について解説するとともに、学校の地球社会への貢献について議論する。また、合憲形都市づくりワークショップを実施し、その習得を目指す。第2日目には、講義法とこのワークショップを組み合わせ、その研修をおこなう。本講習は、仙台市・地蔵町地区の町並み再生プロジェクトの活用を目的とする。	荒瀬豊(秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科教授) 渡辺千明(秋田県立大学木材高度加工研究所准教授)	秋田県大湯村、能代市	9月9日(土)～ 9月10日(日)	12時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、高校全教科	20人	19人
平29-10012-503887号	【選択】初等算数論とその応用	整数全体 {...,-2,-1,0,1,2,...} に関する基本原理から発し、既知な事柄(素因数分解とその一意性、ピタゴラスの定理の自然数解全体)や発展的課題(合同式を用いたRSA暗号等)について考察・理解を深める。また、整数全体が環という数学的対象の一つの例であることを紹介し、慣れ親しんだ計算方法について環の定義・性質から考察する。	大内哲也(教育文化学部准教授)	秋田県秋田市	9月9日(土)	6時間	小学校、中学校(数学)、高校(数学)	10人	5人
平29-10012-503888号	【選択】人工知能と呼ばれるモノ	近年、人工知能と呼ばれるモノがいるいる分野に進出しているが、その多くの基本構想は高校から大学初年次の数学を用いて記述することが出来る。本講義ではこれを平易に解説したい。若い世代ほどその将来を人工知能と呼ばれるモノに左右される可能性が高いであろう。そのような世代が通う学校の先生方の教育指導の一助とされればと考えている。	河上肇(理工学研究科教授)	秋田県秋田市	9月16日(土)	6時間	中学校(数学)、高校(数学・情報)	20人	7人
平29-10012-503889号	【選択】確率分布と統計的な推測	高等学校の数学Bにおける「確率分布と統計的な推測」について理解を深めることを目的とする。確率論の期待値に関する性質、二項分布と正規分布の関係などについて触れ、統計的な推測の考えがなぜ必要なのかみていく。課題研究を進めようとするうえでも有用な、高校生でもできるデータ分析の方法についても取り上げる。	宇野力(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	9月18日(月)	6時間	高校(数学)	20人	5人
平29-10012-503890号	【選択】学校づくりと教職員の課題	主に学校経営に関わって、教育行政機関との関係、学校内の教職員間の関係、児童・生徒や親・保護者、地域住民との関係について、権利・義務関係など、法的、制度的、政策的な問題を整理し、今後のあるべき姿、取り組むべき方法などを検討する。政策上、理論上の課題について掘り下げた後、受講者の勤務する学校での事例を取り上げ、受講者全員との議論を通じて、解決の道を模索する。	佐藤修司(大学院教育学研究科教授)	秋田県秋田市	9月23日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、高校全教科、養護教諭、栄養教諭	15人	13人
平29-10012-503892号	【選択】柔道の指導法	柔道の指導法について、重要事項を向上させるうえで効果的な指導法について学習する。内容は、基本動作や刈込の技術などについて段階的な指導法、体づくしの運動の目的を生かした指導法などである。また、柔道における「伝統的な行動の仕方」の指導のあり方について考察する。	三戸純之(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	9月23日(土)	6時間	中学校(保健体育)、高校(保健体育)、部活動で柔道の指導にあたる教諭	30人	9人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-503899号	【選択】特別支援教育-アセスメントに基いた支援	「特別支援教育」の充実・発展に向けて、教員には、より一層の実践力及び専門性が求められる。その一助となることを期待し、本講習では、発達障害のある子どもに対するアセスメント方法や実際の支援方針について、具体的な事例を紹介しながら学ぶとともに、グループワークなどを行い「アセスメントから具体的な支援へ」と結びつけるかを講ずる。	鈴木徹(教育文化学部講師)	秋田県秋田市	10月28日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、高校全教科、養護教諭	30人	27人
平29-10012-503817号	【選択】美術教育における鑑賞学習	美術教育における鑑賞学習の指導力を身に付けるために、鑑賞学習の基礎的な知識を身に付け、さらに美術館での鑑賞を体験する。そして、鑑賞学習の授業案を作成する。特に児童・生徒の関心・意欲・態度を高めることを主眼とする。	長瀬達也(大学院院教育学研究科教授)	秋田県秋田市	10月28日(土)	6時間	小学校、特別支援学校、中学校(美術)、高校(美術)	16人	7人
平29-10012-503903号	【選択】学校文化と教師	この講習では、現代の日本における学校と教師について、社会学、教育社会学などの議論をもち、教師の多文化、学校と教との連携、専門職としての教師、教育格差などの問題を取り上げて、考えていきます。学校と教師について「当然」と思われていることを、それらを現代社会のなかに位置づけとらえることで、批判的、自省的な視点から見つめ直すことができれば、この講習の目的とします。	和泉浩(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	11月18日(土)～ 11月19日(日)	12時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、高校全教科、養護教諭、栄養教諭	40人	18人
平29-10012-503891号	【選択】学校づくりと教職員の課題	主に学校経営に関わって、教育行政機関との関係、学校内の教職員間の関係、児童・生徒や親・保護者、地域住民との関係について、権利・義務関係など、法的、制度的、政策的な視点を整理し、今後のあるべき姿、取り組むべき方向などを検討する。政策上、理論上の課題について概説した後、受講者の勤務する学校での事例を取り上げ、受講者全員との議論を通じて、解決の道を模索する。	佐藤修司(大学院院教育学研究科教授)	秋田県秋田市	11月25日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、養護教諭、栄養教諭	15人	15人
平29-10012-503896号	【選択】危機管理と教職員の課題	学校における危機管理に関わって、教育行政機関との関係、学校内の教職員間の関係、児童・生徒や親・保護者、地域住民との関係について、権利・義務関係など、法的、制度的、政策的な視点を整理し、今後のあるべき姿、取り組むべき方向などを検討する。政策上、理論上の課題について概説した後、受講者の勤務する学校での事例を取り上げ、受講者全員との議論を通じて、解決の道を模索する。	佐藤修司(大学院院教育学研究科教授)	秋田県秋田市	12月2日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、養護教諭、栄養教諭	15人	15人
平29-10012-503904号	【選択】学校、家庭、地域の連携協力の実践と分析	学校、家庭、地域の連携協力がもたらす子どもの教育、学習支援が目的のものとは何か、その具体的な取り組みはどのような行われているか、その課題は何か、それらが配置すべきことは何か、具体的に実践できることは何か等について事例をもとに考察する。	原藤彦(大学院院教育学研究科教授) 佐々木伸一(秋田県教育庁中央教育事務所主任 社会教育主事) 古内一樹(教育文化学部特別教授)	秋田県秋田市	12月9日(土)	6時間	幼稚園、小学校、特別支援学校、中学校全教科、養護教諭、栄養教諭	25人	25人
平29-10012-503856号	【選択】実験で学ぶ生物の遺伝子DNA-自らDNAを抽出する-	遺伝子DNAは、医療現場・個人の遺伝情報管理、食品の産地や遺伝子組換えの子エック・犯罪捜査と親子鑑定・考古学への利用、など日常生活・食生活のよび教育で非常に身近な存在となっていて、その理解を深めることは全教科、全教科で必要かつ重要である。また簡易DNA抽出法を伝授することで教育現場での実践が可能となる。(主な内容：簡易DNA抽出法の体得、精密な抽出と解析技術の体験、日常生活での利用法の理解)	石井照久(教育文化学部教授)	秋田県秋田市	12月26日(火)～ 12月28日(木)	18時間	小学校、中学校(理科・技術・家庭)、高校(理科・家庭・情報・農業・工業・水産)、栄養教諭	16人	11人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-301233号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅰ(幼・小コース)	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」については、幼小連携を考慮し双方の要領を踏まえ、今回改訂の最新事項も併せて解説する。面談等とも講義後、ワークシヨップ形式により、いじめや不登校の関与・小教諭がそれぞれその立場で理解できる状況を見直しを行い、それに対し講師が助言・解説をし、相互の理解を深めることができることにも、連続的な教育の実践と理論が可能となる。	山岡 正典(教育文化学部附属教育実践研究 支援センター客員教授) 千葉 圭子(大学院教育学部研究科特別教授) 鷹嶋 徹(大学院教育学部研究科特別教授) 工藤正孝(大学院教育学部附属実践専攻 大学院)客員教授) 関谷美佳子(大学院教育学部研究科特別教授)	秋田県大田市	6月18日(日)	6時間	幼稚園 小学校 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	40人	39人
平29-10012-301240号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅲ(中・高コース)	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」については、幼小連携を考慮し双方の要領を踏まえ、今回改訂の最新事項も併せて解説する。面談等とも講義後、ワークシヨップ形式により、いじめや不登校の関与・小教諭がそれぞれその立場で理解できる状況を見直しを行い、それに対し講師が助言・解説をし、相互の理解を深める。	山岡 正典(大学院教育学部研究科特別教授) 千葉 圭子(大学院教育学部研究科特別教授) 鷹嶋 徹(大学院教育学部研究科特別教授) 工藤正孝(大学院教育学部附属実践専攻 大学院)客員教授) 関谷美佳子(大学院教育学部研究科特別教授)	秋田県大田市	6月18日(日)	6時間	中学校全教科 高校全教科 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	20人	14人
平29-10012-301238号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅱ(小中学校コース)	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」では、学習指導要領改訂の最新事項も併せて解説する。面談等とも講義後、ワークシヨップ形式により、いじめや不登校の関与・小教諭がそれぞれその立場で理解できる状況を見直しを行い、それに対し講師が助言・解説をし、相互の理解を深める。	山岡 正典(教育文化学部附属教育実践研究 支援センター客員教授) 千葉 圭子(大学院教育学部研究科特別教授) 鷹嶋 徹(大学院教育学部研究科特別教授) 工藤正孝(大学院教育学部附属実践専攻 大学院)客員教授) 関谷美佳子(大学院教育学部研究科特別教授)	秋田県秋田市	7月9日(日)	6時間	小学校 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	70人	34人
平29-10012-301241号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅲ(中・高コース)	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」については、幼小連携を考慮し双方の要領を踏まえ、今回改訂の最新事項も併せて解説する。面談等とも講義後、ワークシヨップ形式により、いじめや不登校の関与・小教諭がそれぞれその立場で理解できる状況を見直しを行い、それに対し講師が助言・解説をし、相互の理解を深める。	山岡 正典(大学院教育学部研究科特別教授) 千葉 圭子(大学院教育学部研究科特別教授) 鷹嶋 徹(大学院教育学部研究科特別教授) 工藤正孝(大学院教育学部附属実践専攻 大学院)客員教授) 関谷美佳子(大学院教育学部研究科特別教授)	秋田県秋田市	7月9日(日)	6時間	中学校全教科 高校全教科 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	50人	39人
平29-10012-301234号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅰ(幼・小コース)	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」については、幼小連携を考慮し双方の要領を踏まえ、今回改訂の最新事項も併せて解説する。面談等とも講義後、ワークシヨップ形式により、いじめや不登校の関与・小教諭がそれぞれその立場で理解できる状況を見直しを行い、それに対し講師が助言・解説をし、相互の理解を深める。	山岡 正典(教育文化学部附属教育実践研究 支援センター客員教授) 千葉 圭子(大学院教育学部研究科特別教授) 鷹嶋 徹(大学院教育学部研究科特別教授) 工藤正孝(大学院教育学部附属実践専攻 大学院)客員教授) 関谷美佳子(大学院教育学部研究科特別教授)	秋田県横手市	7月27日(木)	6時間	幼稚園 小学校 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	70人	70人
平29-10012-301242号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅲ(中・高コース)	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」については、幼小連携を考慮し双方の要領を踏まえ、今回改訂の最新事項も併せて解説する。面談等とも講義後、ワークシヨップ形式により、いじめや不登校の関与・小教諭がそれぞれその立場で理解できる状況を見直しを行い、それに対し講師が助言・解説をし、相互の理解を深める。	山岡 正典(大学院教育学部研究科特別教授) 千葉 圭子(大学院教育学部研究科特別教授) 鷹嶋 徹(大学院教育学部研究科特別教授) 工藤正孝(大学院教育学部附属実践専攻 大学院)客員教授) 関谷美佳子(大学院教育学部研究科特別教授)	秋田県横手市	7月27日(木)	6時間	中学校全教科 高校全教科 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	50人	45人
平29-10012-301235号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅰ(幼・小コース)	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」については、幼小連携を考慮し双方の要領を踏まえ、今回改訂の最新事項も併せて解説する。面談等とも講義後、ワークシヨップ形式により、いじめや不登校の関与・小教諭がそれぞれその立場で理解できる状況を見直しを行い、それに対し講師が助言・解説をし、相互の理解を深める。	山岡 正典(教育文化学部附属教育実践研究 支援センター客員教授) 千葉 圭子(大学院教育学部研究科特別教授) 鷹嶋 徹(大学院教育学部研究科特別教授) 工藤正孝(大学院教育学部附属実践専攻 大学院)客員教授) 関谷美佳子(大学院教育学部研究科特別教授)	秋田県北秋田市	8月1日(火)	6時間	幼稚園 小学校 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	70人	40人
平29-10012-301243号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅲ(中・高コース)	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」については、幼小連携を考慮し双方の要領を踏まえ、今回改訂の最新事項も併せて解説する。面談等とも講義後、ワークシヨップ形式により、いじめや不登校の関与・小教諭がそれぞれその立場で理解できる状況を見直しを行い、それに対し講師が助言・解説をし、相互の理解を深める。	山岡 正典(大学院教育学部研究科特別教授) 千葉 圭子(大学院教育学部研究科特別教授) 鷹嶋 徹(大学院教育学部研究科特別教授) 工藤正孝(大学院教育学部附属実践専攻 大学院)客員教授) 関谷美佳子(大学院教育学部研究科特別教授)	秋田県大館市	8月1日(火)	6時間	中学校全教科 高校全教科 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	50人	36人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-301239号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅰ（小学校コース）	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」では、学習指導要領改訂の最新事情も併せて解説する。而して、講義後、ワーク形式により、小・中・高レベルの事例を用いて、不登校問題、進路指導、キャリア教育の進め方や家庭・地域との連携・協働等からいづつかの課題について、それぞれの立場から意見交換を行い、それらに対し講師が助言・解説をし、理解を深める。	山岡 正典（教育文化学部附属教育実践研究支援センター客員教授） 茂木 運彦（教育文化学部附属教育実践研究支援センター客員教授）	秋田県秋田市	8月7日(月)	6時間	小学校 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	70人	40人
平29-10012-301244号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅲ（中・高コース）	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」では、学習指導要領改訂の最新事情も併せて解説する。而して、講義後、ワーク形式により、小・中・高レベルの事例を用いて、不登校問題、進路指導、キャリア教育の進め方や家庭・地域との連携・協働等からいづつかの課題について、それぞれの立場から意見交換を行い、それらに対し講師が助言・解説をし、理解を深める。	田中 誠祐（大学院院教育学研究科准教授） 古内 一樹（大学院院教育学研究科特別教授） 廣嶋 徹（大学院院教育学研究科特別教授） 工藤 正孝（大学院院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）客員教授） 関谷 美佳子（大学院院教育学研究科准教授）	秋田県秋田市	8月7日(月)	6時間	中学校全教科 高校全教科 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	50人	44人
平29-10012-301236号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅰ（幼・小コース）	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」では、学習指導要領改訂の最新事情も併せて解説する。而して、講義後、ワーク形式により、小・中・高レベルの事例を用いて、不登校問題、進路指導、キャリア教育の進め方や家庭・地域との連携・協働等からいづつかの課題について、それぞれの立場から意見交換を行い、それらに対し講師が助言・解説をし、理解を深める。	山岡 正典（教育文化学部附属教育実践研究支援センター客員教授） 千葉 圭子（大学院院教育学研究科准教授） 廣嶋 徹（大学院院教育学研究科特別教授） 茂木 運彦（教育文化学部附属教育実践研究支援センター客員教授）	秋田県秋田市	9月24日(日)	6時間	幼稚園 小学校 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	70人	33人
平29-10012-301245号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅲ（中・高コース）	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」では、学習指導要領改訂の最新事情も併せて解説する。而して、講義後、ワーク形式により、小・中・高レベルの事例を用いて、不登校問題、進路指導、キャリア教育の進め方や家庭・地域との連携・協働等からいづつかの課題について、それぞれの立場から意見交換を行い、それらに対し講師が助言・解説をし、理解を深める。	田中 誠祐（大学院院教育学研究科准教授） 古内 一樹（大学院院教育学研究科特別教授） 廣嶋 徹（大学院院教育学研究科特別教授） 工藤 正孝（大学院院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）客員教授） 関谷 美佳子（大学院院教育学研究科准教授）	秋田県秋田市	9月24日(日)	6時間	中学校全教科 高校全教科 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	50人	21人
平29-10012-301237号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅰ（幼・小コース）	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」では、学習指導要領改訂の最新事情も併せて解説する。而して、講義後、ワーク形式により、小・中・高レベルの事例を用いて、不登校問題、進路指導、キャリア教育の進め方や家庭・地域との連携・協働等からいづつかの課題について、それぞれの立場から意見交換を行い、それらに対し講師が助言・解説をし、理解を深める。	山岡 正典（教育文化学部附属教育実践研究支援センター客員教授） 千葉 圭子（大学院院教育学研究科准教授） 廣嶋 徹（大学院院教育学研究科特別教授） 茂木 運彦（教育文化学部附属教育実践研究支援センター客員教授）	秋田県秋田市	11月12日(日)	6時間	幼稚園 小学校 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	70人	40人
平29-10012-301246号	【選択必修】学校現場に即した実践と理論Ⅲ（中・高コース）	「学校を巡る近年の状況の変化」では、これからの教員に求められる資質能力について、中央教育審議会答申等により解説する。また、「学習指導要領の改訂の動向等」では、学習指導要領改訂の最新事情も併せて解説する。而して、講義後、ワーク形式により、小・中・高レベルの事例を用いて、不登校問題、進路指導、キャリア教育の進め方や家庭・地域との連携・協働等からいづつかの課題について、それぞれの立場から意見交換を行い、それらに対し講師が助言・解説をし、理解を深める。	田中 誠祐（大学院院教育学研究科准教授） 古内 一樹（大学院院教育学研究科特別教授） 廣嶋 徹（大学院院教育学研究科特別教授） 工藤 正孝（大学院院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）客員教授） 関谷 美佳子（大学院院教育学研究科准教授）	秋田県秋田市	11月12日(日)	6時間	中学校全教科 高校全教科 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	50人	26人
平29-10012-301247号	【選択必修】幼児期の「発達」と「教育」	発達理解を基礎とした幼児期にふさわしい教育のあり方を考察する。特に発達過程の質的把握、「結果としての」発達、ということを中心に、それをもとに実践を考察することを目指す。また子どもを取り巻く状況の変化をふまえた上で、集居生活の中での子どもの具体的な姿から、幼児期特有の「発達」と「教育」についての理解を深める。	山名 裕子（教育文化学部准教授）	秋田県秋田市	6月3日(土)	6時間	幼稚園	60人	60人
平29-10012-301248号	【選択必修】教育と男女共同参画社会	この講義では、女子高校生の大学進学率が低い傾向、理系分野で女性が少ない状況、特定の職業に特定の性別が多い状態、子どもと女性の就労、雇用条件などとの関連など、教育と進路選択、キャリア形成にかかわる問題をとりあげながら、ジェンダーの基本的な考え方やともに、「男女共同参画社会基本法」などで用いられている「ホリタイル」、アクション」について説明し、学校教育が男女共同参画社会へ向けた取組の積み重ねから、どのような役割を担わなければならないのかを考えていきます。	和泉 浩（教育文化学部教授）	秋田県秋田市	6月10日(土)	6時間	幼稚園 小学校全教科 高校全教科 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	20人	19人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-301249号	【選択必修】幼児期の「教育」と「保育」	幼児教育をめぐる新制度や、保育の長時間化・長期間化という近年の状況の変化を知らせ、現代の保育の課題を挙げる。特に、新制度下での保育者の保育観や教育観などを調査等によって把握し、幼児期に必要とされている教育のあり方を、「教育」「保育」をキーワードとして考察する。考察では養護と教育の一体化、ケアと教育の関係について考え、それをもとに実践を考察することを目的とする。	奥山順子（教育文化学部教授）	秋田県秋田市	6月17日(土)	6時間	幼稚園	60人	60人
平29-10012-301250号	【選択必修】学校カウンセリングの実践的問題について	「児童・生徒との関わり」に知って今ままでとは違った視点を持つこと」をテーマとし、実習や事例検討、グループワークなどを通して、自分自身の児童・生徒との関わりについての理解を深めたり、対応に困っている事例に対して、それまでとは異なる関わり方や視点を持った対応の方法について学んでいきたいと思います。そのため参加者の方には、これまで学校で関わってきた事例を提示していただく場合があります。	柴田健（教育文化学部教授） 清水貴裕（教育文化学部准教授）	秋田県秋田市	6月17日(土)	6時間	小学校 中学校全教科 養護教諭	20人	7人
平29-10012-301252号	【選択必修】道徳教育の方向性と課題	平成27年に学校教育法施行規則が改正され、「道徳」が「特別の教科」である「道徳」になり、また、学習指導要領も一部改正された。その背景について国の審議会の状況等をふまえて整理し、道徳教育の現状と課題等について検討する。その上で、「道徳の時間（特別の教科 道徳）」の学習指導案の作成を通して、「考え」、「議論する」、授業展開のあり方について検討する。	小池孝範（教育文化学部准教授）	秋田県秋田市	6月18日(日)	6時間	幼稚園 小学校 中学校全教科 特別支援学校 養護教諭 栄養教諭	20人	19人
平29-10012-301254号	【選択必修】いじめ・不登校への対応について	これまでに集積してきた事例の幾つかのパターンについてのケーススタディを実施する。特に重篤な不登校（引きこもり）の場合、その原因や対応法についてグループワークを行い、互いの立場からの対応の方法について思いを交わすことのできるよう振り返りシートなどで整理する。	神居隆（大学院教育学部研究科特別教授） 工藤正孝（大学院教育学部研究科密着教授）	秋田県北秋田市	6月24日(土)	6時間	小学校 中学校全教科 養護教諭	15人	2人
平29-10012-301251号	【選択必修】学校カウンセリングの実践的問題について	「児童・生徒との関わり」に知って今ままでとは違った視点を持つこと」をテーマとし、実習や事例検討、グループワークなどを通して、自分自身の児童・生徒との関わりについての理解を深めたり、対応に困っている事例に対して、それまでとは異なる関わり方や視点を持った対応の方法について学んでいきたいと思います。そのため参加者の方には、これまで学校で関わってきた事例を提示していただく場合があります。	柴田健（教育文化学部教授） 清水貴裕（教育文化学部准教授）	秋田県秋田市	7月1日(土)	6時間	小学校 中学校全教科 養護教諭	20人	10人
平29-10012-301257号	【選択必修】小学校外国語活動	小学校英語教育の動向について、講義や演習を通して理解を深める。はじめに、次期学習指導要領で中学年に導入される「外国語活動」、高学年に導入される「外国語」のポイントを把握させる。次に、英語の専門家でない教員が英語で授業を進めるための教育英語のコツや、児童の意欲を高めるコミュニケーション活動の在り方について、実際に体験することによって理解を深める。さらに、先進校や県内各小学校の取組について、情報交換を行う。	関谷美佳子（大学院教育学部研究科准教授）	秋田県秋田市	7月22日(土)	6時間	小学校	20人	10人
平29-10012-301258号	【選択必修】健康関連データの解析	学校保健活動の最新動向に関する養護教諭の方々は種々の健康関連データを所有している。しかし、日常業務に追われて、それらのデータを活用して今後の学校の保健活動に役立てるような課題をなかなか見えていないのが現状のように思われる。本講習では、情報系ソフトウェアを含めた養護教諭が児童生徒に向けてフレキシブルにデータを分析するためにこれらの学校で保有する健康等のデータに活用するための講義・演習を行う。	高崎裕裕（教育文化学部教授）	秋田県秋田市	8月1日(火)	6時間	養護教諭	10人	6人
平29-10012-301259号	【選択必修】異文化コミュニケーション	国際（異文化）理解教育の指導に重要な事柄を講義およびグループワークで確認していく。取り上げる要素は（1）国際理解教育で何を教えるべきか（2）多文化共生の観点から異文化理解教育（3）自己文化中心主義に陥らぬ指導方法（4）外部資源の活用方法である。	宮本律子（大学院国際資源学専攻科教授）	秋田県秋田市	8月4日(金)	6時間	中学校（英語）、高校（英語）	30人	7人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-301260号	【選択必修】養護教師の役割と思春期における児童・生徒の健康問題の理解と対応	養護教師の役割や専門性を確認し、講習を通じて学校現場における課題の整理を行い、効果的な健康相談活動や保健室経営につなげる。また、思春期の健康課題の中から、性の問題と健康教育の進め方、薬物・自傷行為・ゲームやネット依存問題などへの理解と対応について学び実践にいかすことを目指す。	熊澤由美子（大学院医学系研究科講師） 成田好美（大学院医学系研究科講師） 小笹英子（日本赤十字秋田看護大学非常勤講師）	秋田県秋田市	8月19日(土)	6時間	養護教師	30人	7人
平29-10012-301255号	【選択必修】いじめ・不登校への対応について	これまでに集積してきた事例の幾つかのパターンについてのケーススタディを実施する。特に重篤な不登校(引きこもり)の場合、その原因や対応法についてロールプレイを行ないながら実際の対応の仕方について客観的な評価を得ることができるよう振り返りシートなどとして整理する。	神居隆（大学院教育学研究科特別教授） 工藤正孝（大学院教育学研究科専任教授）	秋田県秋田市	8月20日(日)	6時間	小学校 中学校全教科 養護教師	15人	14人
平29-10012-301261号	【選択必修】キャリア教育と日課の接点～自己理解と協力・学びの必要性の理解	「自己理解」「周囲との関係や役割、協力の必要性の理解」「学校生活と将来・社会との接続」「啓蒙的体験」等のキャリア教育に関するテーマについて、各種ワークやグループディスカッションも活用して総合的に理解・実践できることを目指す。	渡部昌平（秋田県立大学総合科学教育研究センター准教授）	秋田県秋田市	9月9日(土)	6時間	小学校 中学校全教科 高校全教科	40人	5人
平29-10012-301253号	【選択必修】道徳教育の方向性と課題	平成27年に学校教育法施行規則が改正され、「道徳」が「特別の教科」である「道徳」になり、また、学習指導要領も一部改正された。その背景について国の審議会の状況等をふまえて整理し、「道徳教育の現状と課題等」について検討する。その上で、「道徳の時間（特別の教科 道徳）」の学習指導案の作成を通して、「考え」、「議論する」授業展開のあり方について検討する。	小池孝範（教育文化学部准教授）	秋田県秋田市	9月18日(月)	6時間	幼稚園 小学校 中学校全教科 高校全教科 特別支援学校 養護教師 栄養教師	20人	8人
平29-10012-301256号	【選択必修】いじめ・不登校への対応について	これまでに集積してきた事例の幾つかのパターンについてのケーススタディを実施する。特に重篤な不登校(引きこもり)の場合、その原因や対応法についてロールプレイを行ないながら実際の対応の仕方について客観的な評価を得ることができるよう振り返りシートなどとして整理する。	神居隆（大学院教育学研究科特別教授） 工藤正孝（大学院教育学研究科専任教授）	秋田県横手市	10月7日(土)	6時間	小学校 中学校全教科 養護教師	15人	0人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習一覽表

認定番号	講習の名称	講習の概要	担当講師	講習の開催地	講習の期間	時間数	主な受講対象者	募集人数	認定者数
平29-10012-100501号	【必修】教育事情の動向	<p>「国の教育政策や世界の教育の動向」「教育としての子ども観・教育観等についての省察」「子ども達の発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子ども達の生活の変化を踏まえた課題」について理解を深め、教員として十分な知識技能を有しているか確認し、新たに必要とされる知識技能の獲得を自指す。講義は教育に関わる具体的な諸問題をとり上げ、受講者参加型の実施形態を目指し、ワークショップも設けて行う。</p>	<p>佐藤 修司 (大学院教育学研究科 教授) 原 誠彦 (教育学文化学部 准教授) 小池 和仁 (教育学文化学部 准教授) 細川 和仁 (教育学文化学部 准教授) 鈴木 翔 (大学院理工学研究科 助教) 小林 建一 (理工学部 非常勤講師) 准教 速瀬 秀弘 (国際教養大学教職課程 准教授) 森 和彦 (教育学文化学部 教授) 宮野 素子 (教育学文化学部 准教授) 中野 良樹 (教育学文化学部 教授) 北島 正人 (教育学文化学部 准教授) 佐藤さゆ里 (南かがやき教室 教育相談員)</p>	秋田県大山市	6月17日(土)	6時間	/	80人	79人
平29-10012-100502号	【必修】教育事情の動向			秋田県秋田市	7月8日(土)	6時間	/	80人	80人
平29-10012-100502号	【必修】教育事情の動向			秋田県秋田市	7月8日(土)	6時間	/	70人	68人
平29-10012-100503号	【必修】教育事情の動向			秋田県横手市	7月26日(水)	6時間	/	80人	80人
平29-10012-100503号	【必修】教育事情の動向			秋田県横手市	7月26日(水)	6時間	/	80人	47人
平29-10012-100504号	【必修】教育事情の動向			秋田県北秋田市	8月2日(水)	6時間	/	80人	53人
平29-10012-100505号	【必修】教育事情の動向			秋田県大館市	8月2日(水)	6時間	/	80人	50人
平29-10012-100506号	【必修】教育事情の動向			秋田県秋田市	8月8日(火)	6時間	/	80人	79人
平29-10012-100506号	【必修】教育事情の動向			秋田県秋田市	8月8日(火)	6時間	/	70人	68人
平29-10012-100507号	【必修】教育事情の動向			秋田県秋田市	10月1日(日)	6時間	/	80人	76人
平29-10012-100508号	【必修】教育事情の動向			秋田県秋田市	11月11日(土)	6時間	/	80人	64人
平29-10012-100508号	【必修】教育事情の動向			秋田県秋田市	11月11日(土)	6時間	/	70人	17人

平成29年度秋田大学教員免許状更新講習修了者・履修者調べ

第8グループ受講見込数 960名 (H27.10時点)

第9グループ受講見込数 911名 (H28.10時点)

県内外 の別	修了者・ 履修者の別	職 名	グループの別			計
			第8G	第9G	その他	
			平成30年3月31日が 修了確認期限の者	平成31年3月31日が 修了確認期限の者	修了確認期限超過 者, 延長申請者等	
県内	修了者	教諭(小学校)	13	108	2	123
		教諭(中学校)	14	72	0	86
		教諭(高校)	18	79	0	97
		教諭(特別支援学校)	5	18	0	23
		教諭(幼稚園)	7	16	1	24
		保育教諭	23	77	22	122
		保育士	29	58	24	111
		養護教諭	0	20	0	20
		栄養教諭	0	6	0	6
		講師・講師登録者	8	39	2	49
		※その他	11	20	7	38
		小計	128	513	58	699
	履修者	教諭(小学校)	2	13	0	15
		教諭(中学校)	2	22	1	25
		教諭(高校)	5	32	0	37
		教諭(特別支援学校)	0	3	0	3
		教諭(幼稚園)	0	2	0	2
		保育教諭	2	6	1	9
		保育士	8	6	1	15
		養護教諭	0	1	0	1
		栄養教諭	0	0	1	1
		講師・講師登録者	1	4	1	6
		※その他	2	6	1	9
小計		22	95	6	123	
県内計		150	608	64	822	
県外	修了者		1	5	0	6
	履修者		14	30	5	49
	県外計		15	35	5	55
合 計		165	643	69	877	

※その他に含まれる職名は、教員採用内定者・教員勤務経験者など受講義務がない者。

秋田大学
教員免許状更新講習推進センター
平成30年3月

〒010-8502
秋田県秋田市手形学園町1番1号
Phone : 018-889-3205
Fax : 018-889-3169
Email : menkyo@jimu.akita-u.ac.jp
URL : <http://menkyo.jimu.akita-u.ac.jp/>